

令和7年度

教育委員会の事務の管理及び
執行状況に係る点検・評価報告書

釜石市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
	(参考)第六次釜石市総合計画※抜粋	2
II	教育委員会の活動	3
1	教育委員会議	
2	総合教育会議	
3	会議以外の主な活動	
III	教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価の結果	4
1	点検・評価の基準	
2	点検・評価の体系	
3	点検・評価の結果	
	基本施策 1 未来を担う子どもたちの育成	
	実施施策 (1)生きる力を育む学校教育の充実	5
	基本施策 2 子どもを育む環境づくり	
	実施施策 (1)地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進	18
	(2)教育環境の充実とさらなる向上	25
	基本施策 3 生涯学習・スポーツの振興	
	実施施策 (1)学びと実践が循環しつながりを創出する生涯学習社会の形成	43
	(2)豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	51
	基本施策 4 歴史・文化・芸術文化の振興	
	実施施策 (1)歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進	52
	(2)橋野鉄鉾山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信	62
	「令和7年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価」について	
	学識経験者からの意見聴取会意見(要点)	70

I はじめに

- この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 26 条に基づき、令和 7 年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検並びに評価結果を取りまとめたものです。
点検及び評価に当たっては、令和 3 年 3 月策定の「第六次釜石市総合計画」の基本目標 4「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」の施策の体系に基づいて整理しました。
- 事業は、教育委員会の事務及び市長部局が補助執行している教育委員会の事業（釜石市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則（平成 29 年釜石市教育委員会規則第 2 号）第 2 条）を範囲とし、「第六次釜石市総合計画」の実施計画に掲載された事業、令和 7 年度における主要事業等を対象としました。
- 評価は、担当課において対象事業の自己評価を行い、その評価の内容、妥当性等について学識経験者の知見の活用を図り二次評価しました。

釜石市教育委員会委員名簿

委 員	齊 藤 敦 子
委 員	花 輪 妙 子
委 員	佐 野 茂 樹
委 員	中 田 義 仁
教 育 長	高 橋 勝

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

- 第 26 条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(参考)「第六次釜石市総合計画」※抜粋

【目指す釜石の将来像】
一人ひとりが学びあい
世界とつながり未来を創るまちかまいし
～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～

◎ 5つの基本目標 (点検・評価の対象：基本目標4)

基本目標1：〔保健福祉〕あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち

基本目標2：〔生活環境〕人と自然が共存し安心して暮らせるまち

基本目標3：〔産業雇用〕未来をつくる人と産業が育つまち

基本目標4：〔教育文化〕地域と人のつながりの中でみんなが育つまち

※抜粋

— 《未来を担う子どもたちの育成》

(実施施策) ○生きる力を育む学校教育の充実

— 《子どもを育む環境づくり》

(実施施策) ○地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進

○教育環境の充実とさらなる向上

— 《生涯学習・スポーツの振興》

(実施施策) ○学びと実践が循環しつながりを創出する生涯学習社会の形成

○豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

— 《歴史・文化・芸術文化の振興》

(実施施策) ○歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進

○橋野鉄鉾山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信

基本目標5：〔危機対応〕過去に学びみんなが命を守れるまち

Ⅱ 教育委員会の活動

教育委員会では、教育行政の執行にあたり、5人の委員で構成される合議制の教育委員会議定例会を毎月開催するとともに、必要に応じて教育委員会議臨時会を開催し、基本方針の決定や各種議案を審議し、教育行政の適正な運営に努めました。

また、市長と教育委員会が教育の課題や方向性を共有して、連携を深めながら教育施策の協議、調整を行う場として、新しい教育委員会制度に対応した総合教育会議を年1回開催しています。

会議以外の活動としては、教育長及び教育委員による学校訪問を行うとともに、学校の各種行事や研修会等に参加することで、学校現場や教育環境等の状況把握に努めています。

1 教育委員会議（開催数）

定例会	12回
臨時会	4回
合 計	16回

2 総合教育会議

第1回（令和8年3月17日）

【協議内容】

- ・部活動の地域展開の現状と今後の方向性について

3 会議以外の主な活動

(1) 学校訪問

釜石市立釜石小学校（令和7年6月27日）

釜石市立甲子中学校（令和7年7月8日）

(2) 中学校区授業実践交流会

各中学校区（令和7年11月27日）

(3) 入学（園）式及び卒業（園）式

市内各小中学校（幼稚園）（4月及び3月）

(4) 研修会等

東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会出席

（令和7年7月10日・11日）

「いわて教育の日」のつどい出席（令和7年11月10日）

Ⅲ 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価の結果

1 点検・評価の基準

評価結果	取組内容（結果）
拡充（継続）	内容を拡充して取り組む
現 状 継 続	現状どおり継続して取り組む
縮小（継続）	内容を見直しながら継続
廃止（含完了）	事業完了、他事業との統合

2 点検・評価の体系

個別事業の点検・評価は、「第六次釜石市総合計画」の基本目標４「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」の施策の体系に基づき、次の区分により整理しました。

基本施策１ 未来を担う子どもたちの育成

【実施施策】 (1) 生きる力を育む学校教育の充実

基本施策２ 子どもを育む環境づくり

【実施施策】 (1) 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進
(2) 教育環境の充実とさらなる向上

基本施策３ 生涯学習・スポーツの振興

【実施施策】 (1) 学びと実践が循環しつながりを創出する生涯学習社会の形成
(2) 豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

基本施策４ 歴史・文化・芸術文化の振興

【実施施策】 (1) 歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進
(2) 橋野鉄鉾山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信

3 点検・評価の結果

基本施策 1 未来を担う子どもたちの育成

実施施策 (1) 生きる力を育む学校教育の充実

事業名	外国語指導助手設置事業	令和 7 年度 決算額	5,241,556 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	英語によるコミュニケーション能力の向上と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するもの。		
取組内容	正職員 1 名に加え外国語指導助手 (ALT) 1 名による学校訪問を行い、担任が主となって授業を進める際に、児童生徒に適切な発音方法や表現について指導支援し、英語で積極的にコミュニケーションを図れるよう補助的な役割を担った。また、幼稚園やこども園を訪問し、幼児期においても英語に触れる機会を創出した。 ○正職員及び外国語指導助手 (ALT) による学校訪問回数 (年間) : 341 回 ・小学校 : 211 回 ・中学校 : 120 回 ・幼稚園・こども園 : 10 回		
取組による 成果と課題	【成果】 外国語指導助手の活用により、児童生徒が英語に親しみ、互いに関わりながら話したり聞いたりする中で、コミュニケーションの楽しさを実感する機会となっており、令和 7 年度岩手県学習定着度調査においても、外国語の学習について肯定的な回答(「好き」、「どちらかといえば好き」)をした児童の割合が合計で 15 ポイント以上上昇している。また、外国語指導助手が授業改善に積極的に参画したことにより、教員一人一人の授業力の向上が図られている。 【課題】 各校、月に 1、2 回程度と訪問回数が少ないため、外国語の授業すべての時間において活用できているわけではない。小学校においては特に、1 週間に 1 回は訪問できるのが理想である。 なお、令和 8 年 8 月より外国語指導助手 (ALT) を 1 名増員予定としていることに伴い、学校訪問回数は年度間で 113 回ほど増加する見込みであることから、上記の「1 週間に 1 回の訪問」も可能となる予定である。		
評価結果	■ 拡充(継続) □ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	教育研究事業	令和 7 年度 決算額	420,939 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	幼稚園及び小中学校における学校課題の解決に向け取り組み、学校運営の円滑化と教育活動の充実・向上を図るもの。		
取組内容	市内教育団体（釜石市小中学校長会等）に対し教育研究業務を委託し、各種課題の解決に向けた協議・研究を行った。 ①釜石市小中学校長会：学校運営に関すること ②釜石地区小中学校副校長会：学校教育課題に関すること ③釜石地区小規模・複式学校教育研究会：小規模・複式教育に関すること ④釜石市幼稚園教育研究会：幼児教育に関すること ⑤釜石市学校図書館研究協議会：学校図書館教育に関すること ⑥釜石市生徒指導連絡協議会：生徒指導に関すること 中学校区ごとに連携体制を設け授業交流会等を開催し、各中学校区における教育実践の活性化を図るとともに、児童生徒一人ひとりの「確かな学力」の育成に資するよう各中学校区の現状に合わせた目標を設定し、課題の解決に取り組んだ。 【小中連携】（令和 7 年度～） 各中学校区で小・中学校が目指す児童生徒像を共有し、その実現のために連携して取組むことにより、当市が目指す「強く生き抜く力」の育成に資することを目的に取り組んだ。 特に各中学校区の学力向上に関する現状と課題について小・中学校を共有しながら、課題解決に向けた継続した取組を行うことにより、当市の課題である「確かな学力」の育成を図った。		
取組による 成果と課題	【成果】 各中学校区で課題を共有することでそれぞれの実態に即した目標を定め、課題解決のために小中学校で情報共有と学校間連携を行うことが出来た。 また、今回の交流と取り組み結果を踏まえ、次年度以降の取り組みに向けて土台作りを行うことができた。 【課題】 令和 7 年度の小中連携授業交流会について、各中学校区同一の日時(令和 7 年 11 月 28 日)に開催していたが、感染症の影響で授業交流会を行えなかった中学校区があった。そのため、令和 8 年度以降は感染症の流行時期よりも前に授業交流会を実施したいとの意見があった。 各学校区における交流会等については、令和 8 年度以降、令和 7 年度よりも日程を前倒しするとともに、予備日を設定するなどの措置を講じ、確実に実施		

	できる体制を整える必要がある。そのため、各学校の意向を確認しながら調整を進めていく。 なお、教育研究委託については、令和８年度から鶴住居幼稚園が休園となることに伴い、釜石市幼稚園教育研究会への委託は実施しない予定である。
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	各種団体等運営事業補助金	令和 7 年度 決算額	1,037,933 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	児童生徒の健康増進及び文化体育の向上を図るもの。		
取組内容	児童生徒の健康増進及び文化体育に関する事業を行う釜石市学校文化体育振興会に補助金を交付した。 ＜補助金の用途＞ ○小学校 【68,530 円】 ・岩手県小学生陸上競技交流大会県・全国大会補助 ・岩手県タグラグビー大会補助 ○中学校 【969,403 円】 ・岩手県中学校総合体育大会、東北中学校総合体育大会、岩手県中学校新人大会等の中体連主催大会、及び岩手県吹奏楽コンクール、岩手県アンサンブルコンテスト等の大会参加費補助（530,451 円） ・合同部活動が練習等を実施する際の交通費補助（438,952 円）		
取組による 成果と課題	【成果】 児童生徒の大会参加費や大会参加に伴う交通費、合同部活動に係る練習場所への移動費を補助することで、家庭の経済的負担の軽減が図られた。 また、児童生徒が安心して各種大会や合同練習に参加できる環境を整備することで、スポーツ・文化活動への意欲向上や競技力・表現力の向上につなげた。 【課題】 大会参加や合同部活動に係る経費は、物価高騰や交通費の上昇等により今後も増加が見込まれることから、持続的な支援体制の確保が課題となっている。 また、児童生徒が居住地域や家庭状況に左右されることなく、等しく文化体育活動に参加できるよう、補助制度の効果的な運用とニーズに応じた支援内容の検討を継続していく必要がある。さらに、合同部活動の拡大に伴い、移動に係る負担軽減や安全確保についても引き続き検討が求められる。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	防災教育・復興教育推進事業	令和 7 年度 決算額	931,252 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	「いわての復興教育」プログラムに基づき、「いきる」「かかわる」「そなえる」の 3 つの教育的価値に関連付けた教育活動を推進し、郷土を愛しその復興・発展を支える人材を育成する。 ※岩手県からの委託事業（事業実施校は意向調査をもとに岩手県が決定）		
取組内容	①交流学习スクール ○事業実施校：唐丹中学校（2 学年） ・八幡平市立西根第一中学校の生徒との交流学习、イーハトーブ火山局で火山噴火災害学習を行った。 ②震災学習列車活用スクール ○事業実施校：釜石中学校（2 学年） ・東日本大震災についての学習として、市外の復興の様子を確認するため、三陸鉄道の震災学習列車に乗車した。また東日本大震災津波伝承館等を訪問し、震災被害や命の大切さを学んだ。		
取組による 成果と課題	【成果】 目的に沿った事業を実施することができた。 ①交流学习スクール ・防災への意識を高め、自分の地域の自然災害への備えについて改めて考えることができた。 ②震災学習列車活用スクール ・震災当時の被害と復興の様子について学び、自然災害への心構えや、将来に向けて自分にできることを考える契機となった。 【課題】 岩手県からの委託事業であるため、県事業が廃止された場合の対応を検討する必要がある。 また、各校の防災・復興教育の一層の充実に向け、各校での活用検討を含め、本事業の内容等について周知に努める必要がある。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	ICT 支援員配置事業	令和 7 年度 決算額	2,636,000 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	急速に進む学校の ICT 化による学校現場の負担を軽減し、児童生徒の学びのために ICT 環境のさらなる有効活用を図るもの。		
取組内容	専門的な知見を有する ICT 支援員を配置し、研修会や授業支援を実施することで教員の ICT 活用をサポートした。 ・ 配置人数 1 名、月 72 時間 ・ 学校担当者向けの研修会の実施 ・ Microsoft Teams を活用した相談支援の実施 ・ 教職員からの質問、サポート依頼への対応、学校訪問		
取組による 成果と課題	【成果】 ICT 支援員が学校現場での ICT の活用を多面的に支援し、併せてトラブル等を解決することで、教職員や児童生徒が安心して ICT 環境を活用することができた。 また、令和 8 年度から新しく導入する児童生徒用タブレットの導入に向けた事前調整等のサポートを受けることもできた。 【課題】 学校間及び教職員間における ICT 活用や情報セキュリティ意識の差を解消するため、校長会議や通知等を活用して基本的な考え方や運用ルールの周知徹底を図るとともに、ICT 支援員による支援や研修機会の充実に努める。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	要保護・準要保護児童生徒援助費 (小中学校費)	令和 7 年度 決算額	小学校費 学用品費等 8,353,191 円 学校給食費 14,250,476 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		中学校費 学用品費等 13,370,401 円 学校給食費 9,822,999 円
目 的	経済的理由で就学困難な小中学生の保護者に対し、必要な援助を行い、義務教育の円滑な実施を図るもの。		
取組内容	学用品費等（通学用品費、校外活動費、修学旅行費、児童・生徒会費等）及び学校給食費の援助を行った。 【小学校】 ・ 要保護：7 人 ・ 準要保護：306 人 ・ 準要保護（小学校入学前学用品費支給者）：16 人 ・ 準要保護学校給食費援助人数：305 人（準要保護対象者のうち、長期欠席等により給食費援助対象外となった児童 1 人） ※人数は援助した児童数（転出等により年度途中で援助が終了した児童も含む。） 【中学校】 ・ 要保護：3 人 ・ 準要保護：192 人 ・ 準要保護（中学校入学前学用品費支給者）：45 人 ・ 準要保護学校給食費援助人数：189 人（準要保護対象者のうち、市外中学校へ就学した生徒 1 人、長期欠席等により給食費援助対象外となった生徒 2 人） ※人数は援助した生徒数（転出等により年度途中で援助が終了した生徒も含む。）		

取組による 成果と課題	【成果】 経済的理由により就学が困難な小・中学生の保護者に対し必要な援助を行ったことにより、義務教育の円滑な実施と市内児童生徒の教育機会の均等化に寄与した。 【課題】 令和8年度より被災児童生徒就学援助事業費補助金（東日本大震災）から被災児童生徒就学援助事業費補助金（大規模災害）に取り扱いが変わり、補助率も10/10から2/3に変更となった。継続時期も引き続き不透明であり、一般財源のみでの実施となった場合、現在の認定基準（生活保護基準×1.3倍未満）で事業を継続することができるのか、財源確保を含め、実施内容を検討する必要がある。
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	特別支援教育就学奨励費（小中学校費）	令和 7 年度 決算額	小学校費 301,466 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		中学校費 274,383 円
目 的	特別支援学級に就学する児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、必要な経費の一部を補助することにより、特別支援教育の普及奨励を図るもの。		
取組内容	学用品費、修学旅行費、学校給食費等の一部を補助した。 【援助人数】 ・ 小学校：15 人 ・ 中学校： 6 人		
取組による 成果と課題	【成果】 特別支援学級に就学する児童生徒の教育に係る支出の一部を補助することで、保護者等の経済的負担を軽減することができた。 【課題】 要保護・準要保護児童生徒援助費の認定基準と比較し、所得の認定基準額の上限額が高くなっていること、国庫補助金との兼ね合いから、就学援助と違い修学旅行費に上限を設けている（就学援助は実費負担）が、要保護・準要保護児童生徒援助費と同等の補助基準にするべきか検討する必要がある。 なお、学校給食費については令和 8 年度より市内全児童生徒が無償化の対象となったため、就学奨励費の補助対象外となる予定である。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	中学生相互派遣事業 (青森市平和・防災学習事業)	令和 7 年度 決算額	600,046 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	青森市の中学生との交流を通して、平和や防災についての学習を深め、よりよい学校や地域づくりをしようとする意識の向上に資するもの。		
取組内容	【参加者】 ・釜石市各中学校代表 1 学年 10 人 (各校 2 人) ・青森市各中学校代表 1 学年 10 人 (各校 2 人) 【青森市での交流】 令和 7 年 7 月 27 日 (日) ～29 日 (月) ・青森市平和祈念式典への参加、青森市長への表敬訪問、生徒同士の意見交流、青森市中央市民センター等の平和関連施設や防災関連施設の見学を行った。艦砲射撃と青森空襲の被害を重ねながら、平和の尊さや災害の危険性・備え方について考えを深めた。 【釜石市での交流】 令和 7 年 8 月 9 日 (土) ・釜石市戦没者追悼式への参加、ボランティア団体「颯・2000 の会」より、艦砲射撃に関する紙芝居や体験した方の手記、戦争に関する絵本の読み聞かせ、生徒同士の意見交流、釜石市郷土資料館の見学を行った。青森空襲の被害と重ねながら、平和の尊さについて考えを深めた。 【各校での共有】 ・参加者は、体験したことや学んだことを各学校の生徒に情報発信した。		
取組による 成果と課題	【成果】 互いの市を訪問し合い、平和や防災に関する歴史や現状について学びを深めることで、生徒の意識の向上が図られた。特に令和 7 年度は戦後 80 年となる年であったこともあり、平和の尊さやそれを守り続けることの意義について、それぞれの生徒たちが深く心に刻んでいた。 また、代表生徒が学んだことを各学校で発表することで、学校全体の平和教育や防災教育の意識が向上した。 【課題】 代表生徒による学びの共有は行われているものの、その成果を学校全体へ波及させ、継続的な活用につなげるための取組の一層の充実が求められる。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	全国標準学力検査（NRT）及び標準学力検査（CRT）等の実施（小中学校費）	令和 7 年度 決算額	小学校費 1,463,860 円						
担当課	教育委員会事務局学校教育課		中学校費 2,152,950 円						
目 的	全国標準学力検査（NRT）及び標準学力検査（CRT）を実施し、児童生徒の学力の実態や学習内容の定着状況を客観的に把握するとともに、知能検査により認知特性等を把握し、一人ひとりの実態に応じた指導・支援の充実及び学習指導の改善を図る。								
取組内容	○全国標準学力検査（NRT）（※50 が全国平均） 市内小中学校（小学校 9 校、中学校 5 校）で 4～5 月に実施								
		小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
	国語	50.2	49.4	47.4	49.2	47.7	47.7	47.5	46.6
	社会			42.3	46.6	42.3	45.9	47.1	46.3
	算数・数学	50.0	47.4	47.2	49.2	46.5	45.9	45.9	42.1
	理科			44.3	47.3	45.3	46.7	46.2	46.3
	英語				46.6	46.6	44.7	45.5	43.5
	○標準学力検査（CRT）（※100 が到達目標） 市内小中学校（小学校 9 校、中学校 5 校）で 12 月～1 月に実施								
		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2
	国語	95	100	92	90	97	95	94	94
算数・数学	98	98	92	83	95	91	80	91	
取組による 成果と課題	○知能検査 市内小中学校（小学校 9 校、中学校 5 校）で 4～5 月に実施 （※小学校 2・4・6 年生、中学校 1 年生または 2 年生で実施）								
	【成果】 学習指導要領に準拠し、各教科の内容に応じた領域で構成された検査であり、その結果を調査・分析することで、児童生徒一人ひとりに応じた補充指導等に活用することができ、学力向上の一助となった。 また、CRT の実施により、単元ごとの達成度や課題点をより細かく把握できることにより、児童生徒の躓きの改善等に活用することができた。								
	【課題】 それぞれの調査には異なる目的と役割があることから、各学校の意見を伺いながら、調査の必要性や効果を検証し、市内の子どもたちの学力向上及び健やかな成長に資する学力調査の適正な実施に向けて、引き続き協議を進めていく必要がある。								
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)								

事業名	英検受検料補助事業	令和 7 年度 決算額	286,000 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	生徒の英語学習に対する意欲と学力向上を図るもの。		
取組内容	市内中学生で 3 級以上の英語検定を受検する生徒の受検料補助。		
取組による 成果と課題	【成果】 補助実績人数（うち合格人数） ・ 3 級 ： 45 人（26 人） ・ 準 2 級： 10 人（ 5 人） 【課題】 3 級以上の補助実績が少なかったことから、英語検定や補助があることの周知方法について課題があると認識している。学校への文書通知にとどまっていた周知方法を、対象を生徒及び保護者宛へも拡大し、受検料補助事業のより広い周知に努める。 また、現在は 1 人につき年 1 回の補助であるが、3 級合格者は準 2 級を同年度に受ける場合も補助を行う等の補助運用も検討する。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	放課後等学習支援員配置事業	令和 7 年度 決算額	3,599,420 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	自分に自信をもち、可能性を広げ、将来活躍できる人材を育成するとともに、児童生徒の学力の向上を図るため、放課後学習の場を整備することにより、多様な学習の場を保障し、児童生徒が自ら求める場の選択肢を広げることで、課題を克服し、学習への意欲につなげ、積極的に参加する姿勢を育むことで学力の向上につなげる。		
取組内容	学習内容の定着と学習意欲の一層の向上を図るため、民間事業者への業務委託により、放課後の時間を活用した学習会等について令和 6 年度から実施している。 令和 7 年度は、市内中学校 5 校の 3 年生の希望者を対象に、放課後に週 1 回程度の学習会、長期休暇及び休日学習会を開催した。 学習会の開催日は、各中学校の要望を受け、協議のうえ決定し、1 回 1 時間 30 分程度（始業準備から終業点検までおおむね 2 時間程度）の実施。 ・ 令和 7 年度実施回数：166 回 ・ 参加延べ人数 ：1,706 人		
取組による 成果と課題	【成果】 「つまづいたところを解消したい」「応用問題や過去の入試問題に挑戦したい」など、生徒自らが必要な学習内容を選択し、自身の学力に応じた学習に主体的に取り組むことができた。その結果、課題を自ら解決しようとする姿勢や学習習慣の定着が見られるとともに、学習に対する自信や意欲の向上につながるなどの成果が見られた。 参加者アンケートの結果、「学習意欲が高まった」と回答した生徒は 78%、「学習習慣が身についた」または「やや身についた」と回答した生徒は合わせて 96%に達しており、顕著な成果が見られた。 【課題】 学校の各種行事との日程調整や部活動及び下校時刻との調整。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

基本施策 2**子どもを育む環境づくり****実施施策****(1) 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進**

事業名	教育広報発行事業	令和 7 年度 決算額	312,435 円
担当課	教育委員会事務局総務課		
目 的	教育行政について広く市民に周知するもの。		
取組内容	「教育広報かまいし」(A4 版・8 ページ/年・カラー刷) を 3 回 (4/15 号、8/1 号、10/15 号) 発行し、全世帯へ配付した。 【主な掲載記事】 4/15 号 (2 ページ) ・令和 7 年度教育行政方針 ・重点的取り組み 8/1 号 (2 ページ) ・いのちの教育の取り組み ・いじめ防止の取り組み ・釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画(案)の意見募集 ・鶴住居幼稚園休園のお知らせ 10/15 号 (4 ページ) ・釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画の概要 ・令和 7 年度第 65 回釜石・大槌地区小学校陸上記録会の中止について ・10 月 1 日付任命の教育長、教育委員の紹介		
取組による 成果と課題	【成果】 教育委員会の事業や様々な取り組みを広く市民に紹介することができた。 特にも、釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画策定にあたり、釜石市の教育の全体構想を改めて周知することで、教育活動にさらなる関心をもってもらうことができた。 なお、今年度から広報かまいしに年間 8 ページ分を教育広報として掲載することで、一層、市民の目に触れやすくなった。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	かまいし絆会議運営事業	令和 7 年度 決算額	355,094 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	市内の小中学生一人ひとりが将来の釜石市をつくるリーダーになる力を身に付けるもの。		
取組内容	○かまいし絆会議の開催（令和 7 年 8 月 6 日、令和 8 年 2 月 14 日） ・ 8 月は釜石市民ホール TETTO ホール B を会場に、2 月は釜石情報交流センターPIT を会場に開催した。 ・ 会議には、各小中学校児童生徒 28 名（各校 2 名）、各小中学校引率教員 14 名（各校 1 名）が参加し、「絆の日」の取組や絆会議 4 つの柱の活動などについて話し合った。 ・ また、8 月の会議では、かまいし未来づくりプロジェクト 19 名も参加し、「かまいし絆議会」に関する話し合いを行った。 ○かまいし絆議会の開催（令和 7 年 11 月 7 日） ・ 児童生徒が自分たちの市について見つめ直し、生活をより良くするために課題を考え、質問や提案を行った。子ども自身が主体的に地域のことを考える機会となった。 ○中学校専門部会の開催（令和 8 年 1 月 20 日） ・ 各中学校 2 年生代表 2 名ならびに担当教員 1 名が参加し、新体制の確認、本会議に向けて話し合う内容を検討した。 ○かまいし絆会議通信の発行（学校教育課、各学校）		
取組による 成果と課題	【成果】 釜石市小中学生による「かまいし絆会議」が、自分たちの生活や地域のことに課題意識を持ち、児童会や生徒会を中心に自分たちにできることを考える場となった。防災や絆の日の取り組みについて、自分事として考えをもち、意見交流をすることができた。 「かまいし絆議会」では、児童生徒が地域課題を主体的に捉え、市当局への一般質問や提案を行う貴重な機会となり、地域社会への参画意識や将来の地域づくりを担うリーダーとしての資質の育成につながった。 【課題】 市内の小中学生が、会議のメンバーの一員であるという意識を向上させるため、会議内容を学校全体で共有し、児童会・生徒会活動との連携などについて検討していく必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	かまいしコミュニティスクール推進事業	令和 7 年度 決算額	1,350,000 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	市内小中学校において地域に元気を与えるような活動、当市の風土、伝統及び有形無形の財産を活用して郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育む。 地域と協働により取り組む活動に要する経費に対し、交付金を交付するもの。		
取組内容	市内小中学校 14 校に対し、各校 10 万円を上限として交付金を交付した。 【事業内容】		
	学校名	活動内容	
	釜石小学校	農業・水産業等の体験活動、伝統芸能の継承活動	
	双葉小学校	防災学習・施設見学、清掃活動、ふるさと釜石の学習	
	白山小学校	米づくり体験、高齢者との交流活動、地域交流イベント（清掃活動、懇談会、ふれあいフェスティバル）	
	平田小学校	清掃活動、高齢者との交流活動、地域交流	
	小佐野小学校	校報の地域配布、伝承活動「小川しし踊り」、鉄の学習	
	甲子小学校	市内施設見学、交通安全・防災活動、農園活動	
	鵜住居小学校	防災学習、清掃活動、伝統芸能「鵜住居虎舞」の継承活動、タグラグビー活動	
	栗林小学校	伝統芸能の継承活動、自然学習、農園活動、鉄の学習、地域交流	
	唐丹小学校	環境整備、花卉野菜栽培、地域交流活動	
	釜石中学校	地域講師による三味線指導	
	甲子中学校	特設ラグビー部活動、防災学習、鉄の学習	
	釜石東中学校	漁業体験	
	唐丹中学校	小中合同運動会、環境美化活動、郷土芸能伝承活動	
	大平中学校	福祉学習・高齢者との交流活動、防災学習、職業体験	
	取組による 成果と課題	【成果】 各学校が交付金を活用し、各校・地域に根差した独自の活動を行うことで、地域とのつながりや児童生徒の郷土理解を深めることができた。	
【課題】 交付金を活用した活動は前年度以前から継続して実施されているものが多いが、交付金の使途がより目的に対して効果的なものとなるよう、各校の事業計画に対して内容確認や方向修正など精査を行っていく必要がある。			
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	学校給食センター運営費	令和 7 年度 決算額	227,821,585 円			
担当課	教育委員会事務局学校教育課 学校給食センター					
目 的	・安全安心な食材の確保、衛生管理に十分な注意をはらい、栄養バランスの良い安全でおいしい学校給食を提供する。 ・児童生徒一人ひとりが正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるよう食育を推進する。					
取組内容	○地場産物の利用 水産農林課、産直と情報共有を図り、地場産物の確保利用につなげた。 (じゃがいも(メークイン、北あかり)、精白米、きゅうり、りんご、大根、白菜、たまねぎ、トマト(すずこま) など) 〈地場産食材使用状況〉					
	年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
	品目数	10	11	10	15	10
	使用数量	3,096 kg	2,891 kg	3,472 kg	3,345 kg	2,928 kg
	○食に関する指導 栄養教諭による学校訪問指導(授業)を行った。 〈指導実績〉					
	年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
	実施回数	56	【学校給食センター】9 (【学校教育課】52)	【学校給食センター】7 (【学校教育課】47)	70	79
	※R4、R5 年度は栄養教諭が学校給食センターと学校教育課に 1 名ずつ分散配置。					
	○アレルギー対応給食 乳・卵アレルギーを有する児童生徒に対し、除去食・代替食の提供を行った。					
	○献立募集 小中学生を対象にわが家の自慢料理を募集した。入賞者には賞状及び記念品を贈呈した。 応募数：小学校 74 作品(最優秀賞 1、優秀賞 4) 中学校 14 作品(優秀賞 2)					
○卒業リクエスト給食 小 6、中 3 のアンケート結果をもとに 2 月の献立に取り入れ実施した。						
○学校給食残量調査 9 月から 11 月にかけて 6 回にわたり副菜及びご飯の残量調査を実施した。						
○防災給食 防災教育の一環としてローリングストックできる食品である缶詰(豆類・とうもろこし)や乾物野菜(切干大根)を取り入れた給食の提供、及び東日本大震災が発生した 3 月 11 日にあわせて救給カレーの提供を行った。						

	○姉妹都市・友好都市交流献立 愛知県東海市及び富山県朝日町にちなんだ給食を提供した。 ○まるごと釜石給食 釜石産の新米、野菜と釜石はまゆりサクラマスを使用した給食を提供した。 ○施設見学及び給食試食会 ・施設見学 6回 78人 ・給食試食会 16回 278人
取組による 成果と課題	【成果】 地元企業や生産者と連携して地場産食材を安定的に提供したことや、栄養教諭による食に関する指導の実施回数が増加したことにより、児童生徒の食への関心や理解の向上が図られた。 【課題】 地場産食材については安定的に確保し供給できたものの、活用可能な地場産食材の数量が限られており、令和6年度と比較して使用数量が減少しているため、地場産食材の量の確保が課題となっている。 また、試食会の実施回数が減少したため、学校や保護者の他、地域住民の理解を深めるため、更なる周知が必要である。
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	子ども・子育て支援給付事業（給食費の一部無償化事業）	令和 7 年度 決算額	35,648,949 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課 学校給食センター		
目 的	多子世帯の経済的負担を軽減し、子育て支援を推進する。		
取組内容	・令和 5 年度から第 3 子以降の児童生徒の学校給食費の無償化を実施し、令和 7 年度からは第 2 子以降の児童生徒に無償化の対象を拡充した。 ・令和 8 年度は、更に第 1 子に無償化の対象を拡充し、小中学校の児童生徒の給食費の完全無償化を実施する。 【対象件数】 601 件（小学生 393 件、中学生 208 件）		
取組による 成果と課題	【成果】 多子世帯における学校給食費の経済的負担の軽減が図られ、子育て支援につなげることができた。 【課題】 令和 8 年 4 月から小学校分については国による支援が決定したものの、物価高騰に伴う給食食材費の上昇により、予定されている国の支援額では必要経費を十分に賄えない状況にある。加えて、中学校分については国の支援が未定であり、完全無償化の安定的な実施に向けて財源確保が課題となっている。		
評価結果	■ 拡充(継続) □ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	学校給食用牛乳保冷庫更新事業【新規】	令和 7 年度 決算額	660,000 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課 学校給食センター		
目 的	安心安全で確実な学校給食を学校の給食実施日に確実に提供し、学校給食を生かした食育の推進に繋げる。		
取組内容	学校給食衛生管理基準に基づき、学校給食用牛乳を適正に管理し提供できるよう、経年劣化している牛乳保冷庫を順次更新するもの。		
取組による 成果と課題	【成果】 学校給食用牛乳の安全な提供に不可欠な牛乳保冷庫 1 台（小佐野小学校）の更新を図ることができた。このことが、安心安全で確実な学校給食の提供継続につながった。 【課題】 他の小中学校の経年劣化した牛乳保冷庫についても、安心安全な学校給食の提供のため、確実な更新が必要である。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

基本施策 2**実施施策****子どもを育む環境づくり****(2) 教育環境の充実とさらなる向上**

事業名	岩手県立釜石高等学校定時制教育振興 会運営補助金	令和 7 年度 決算額	50,000 円
担当課	教育委員会事務局総務課		
目 的	岩手県立釜石高等学校定時制教育の普及振興並びに修学の督励を推進すること。		
取組内容	岩手県立釜石高等学校定時制教育振興会が行う教育振興事業に要する経費に対して、補助金を交付した。 (主な事業内容) ・遠足、産業体験学習、防災体験学習などの実施 ・釜高祭での展示作品づくり		
取組による 成果と課題	【成果】 本補助金の支出により、定時制教育振興会による各種体験学習が継続的かつ安定的に実施され、生徒の学習活動や学校生活への支援の充実が図られた。 【課題】 限られた補助金をより効果的に活用するため、生徒のニーズを踏まえた事業内容の検証と見直しを継続的に行う必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	奨学資金貸付金	令和 7 年度 決算額	2,556,000 円				
担当課	教育委員会事務局総務課						
目 的	優秀な学生であって、経済的事由により修学の困難な者に対して、学費の貸与を行うことにより修学の機会を与え、有用な人材の育成を図るもの。						
取組内容	奨学生に対し継続して学費の貸与を行ったほか、随時募集及び奨学金の返還猶予を行った。 貸与月額 ・ 高等学校 16,000 円以内 ・ 大学等 45,000 円以内 (短期大学、専門学校及び大学院も含む) 【奨学金の貸付者数】						
	年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	奨学金の貸付者数	14(2) 人	13(3) 人	12(3) 人	5(0) 人	5(2) 人	
	※()は、新規貸付者数						
	【奨学金の追加募集（随時）及び奨学金の返還猶予者数】						
	年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	追加募集者数	0人	0人	0人	0人	0人	
返還猶予者数	1(1) 人	1(1) 人	1人	1人	1人		
※()は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う収入減によるもの							
取組による 成果と課題	【成果】 経済的理由により修学が困難な学生に対して奨学資金を貸し付けることで、高等教育を受ける機会の確保を図り、学業意欲と能力を有する人材の育成に寄与した。						
	【課題】 少子化や給付型奨学金制度の充実に伴う利用者数の推移を注視しながら、経済的理由により修学が困難な学生への支援が適切に行われるよう、広く丁寧な情報提供に取り組む必要がある。						
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)						

事業名	学校施設整備事業（小中学校費）	令和 7 年度 決算額	小学校費 94,922,300 円
担当課	教育委員会事務局総務課		中学校費 10,261,900 円
目 的	学校施設の長寿命化や児童生徒の教育及び学習環境の向上を目的として、校舎内のトイレの洋式化、特別教室のエアコン設置を進めるもの。		
取組内容	・ 甲子小学校の校舎（鉄筋コンクリート造 3 階建て）内トイレを全面的に洋式化改修した。（94, 922, 300 円） ・ 甲子中学校の特別教室（音楽室・理科室）にエアコンを設置した。（10, 261, 900 円）		
取組による 成果と課題	【成果】 ・ 校舎内トイレを全面的に改修したことで、学校内の衛生環境の改善、児童のトイレに対する心理的負担の軽減が図られたほか、水まわりや照明を改善することで節水や省エネ効果で年間経費の削減も期待できる。 ・ 多目的トイレもオストメイト対応仕様に改修したことで、学校生活のみならず、災害時に避難所利用された場合においても多様なケースに対応できる環境を整備できた。 ・ 特別教室へのエアコン設置によって、生徒の熱中症リスクの軽減が図られるほか、教育及び学習環境が大幅に向上した。 【課題】 学校施設の長寿命化や設備改修は、良質な教育環境の確保と災害時の避難所機能の強化のためにも重要であるが、改修を要する市内小中学校は未だ数多くあることから、少子化による学校規模の適正化を踏まえた計画的な施設整備の実施とともに、より適切な維持管理、予防保全を推進する必要がある。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	学校規模適正化・適正配置の取組	令和 7 年度 決算額	145,000 円
担当課	教育委員会事務局 学校規模適正化推進室		
目 的	児童生徒数が減少し、小・中学校の小規模校化が進む中、学校規模の面から望ましい教育環境を整備し児童生徒の「強く生き抜く力」を育成するため、学校規模の適正化・適正配置を推進するもの。		
取組内容	1 釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画の策定に向けた取組 (1)目的 令和 6 年 3 月に策定した釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針の具現化に向けた計画の策定を目指すもの。 (2)経過 令和 7 年度は計画策定委員会を 3 回（令和 6 年度から通算 7 回）開催。各学校長、PTA、地域住民、児童生徒及び市議会議員の意見等を共有しつつ、令和 7 年度中の計画策定に向けた検討・協議を進め、令和 7 年 9 月に推進計画の策定に至った。 計画策定までには、各校 PTA 総会での説明及び資料配布、白山小及び栗林小 PTA 役員との意見交換、地域会議への説明及び意見交換等を実施している。また、市議会議員全員協議会での説明を実施し、小中一貫教育についての勉強会を開催した。 各学校長との意見交換、白山小・唐丹小中 PTA 及び未就学児の保護者対象の適正化に関するアンケート、市内小中学校及び幼保施設に在籍する子の家庭への推進計画案（概要版）の配布、地域説明会（市内 10 か所・延べ 165 人参加）、意見募集（パブリックコメント）を実施して広く意見を集めた。 計画策定委員会の開催状況等については市ホームページに掲載し、随時公表に努めた。また、計画策定後は、市内全小中学校及び幼保施設に在籍する子の家庭に、推進計画（概要版）を配布。栗林小、白山小では全校児童向けの学校統合についての説明会を行った。 2 釜石市小中学校統合等準備庁内検討委員会の設置 (1)目的 庁内の多様な見地から検討を行い、学校統合等に必要となる施設整備や学校統合後の跡地利用等に係る方針を取りまとめるもの。 (2)経過 令和 7 年度は 5 回開催。学校統合準備委員会での決定事項等について情報共有を図った上で、様々な目線で跡地利用の方針を検討している。		

	3 学校統合準備委員会の設置 (1)目的 「学校規模適正化・適正配置推進計画」に基づき、学校統合にあたっての様々な課題を協議・検討し、円滑な統合に向けた準備を進めるもの。 (2)経過 学校統合準備委員会設置要綱を制定（令和7年10月1日施行）し、栗林小と鶴住居小、及び白山小と平田小の統合に向け、それぞれの組合せごとに学校統合準備委員会を立ち上げた。令和7年度はそれぞれ2回開催し、統合後の学校名、校歌、校章について合意を得た。委員会の結果は「学校統合準備委員会だより」を通じて公表している。 4 鶴住居幼稚園の休園 令和8年度から休園することが決定。休園中の園舎は、令和8年4月から釜石市教育支援センター「若葉教室」として当面活用する。
取組による 成果と課題	【成果】 令和7年9月に「釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画」を策定することができた。計画に基づき、栗林小・鶴住居小、白山小・平田小でそれぞれ学校統合準備委員会を立ち上げ、令和7年度中に各2回の委員会を開催し、統合後の学校名、校歌、校章の合意に至っている。 学校統合準備委員会の中に設置した専門部会では、統合する際の課題解決や事前交流等の検討・協議が進んでおり、令和9年4月の統合に向けた取組が着実に進んでいると捉えている。 【課題】 ・栗林小、白山小の閉校に向けた取組の推進 ・閉校後の跡地、施設の利活用 ・釜石小・双葉小の統合に向けた協議（PTA、地域との合意形成） ・釜石中、唐丹中の統合時期についての合意形成及び準備委員会の立ち上げ ・釜石東中・鶴住居小における小中一貫教育導入に向けた取組の推進
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	教育用コンピュータ管理経費（小中学校費）	令和 7 年度 決算額	小学校費 62,987,363 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		中学校費 39,021,326 円
目 的	市内小中学校及び教育委員会事務局にて使用している PC 等の適切な維持管理を行うもの。		
取組内容	・児童生徒用新タブレット端末導入 ・コンピュータ機器等の保守管理業務委託 ・授業支援ソフト使用料 ・インターネット使用料 ・学習者用タブレット賃借料		
取組による 成果と課題	【成果】 ICT 機器等の維持管理を適切に行うことができた。また、業務委託先の事業者と連携の上、市内小中学校の ICT 機器等のトラブルに迅速に対応した。 また、令和 8 年度利用開始のための児童生徒用新タブレット端末の導入を行った。 さらに、児童生徒用タブレット端末の安全かつ効果的な活用を図るため、令和 8 年度には、市内小中学校の児童生徒一人ひとりにタブレット端末用クッションケース及び充電器を整備することとした。 【課題】 AI ドリルソフト及び自動採点ソフトの急速な導入に伴い、導入初期段階における教職員の負担軽減を図るためのサポート体制の整備が求められる。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	教育研究所運営費	令和 7 年度 決算額	821,495 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	幼稚園・保育所・こども園・小中学校の教育実践に資する活動を計画し運営するもの。 教育課題やこれからの学校教育に求められる内容等について、研究・研修・相談活動を行うことにより、学校教育における教育成果の向上に寄与するもの。		
取組内容	○教育研究所各研究班による課題研究 【こころの教育研究班】 ・各校において『防災教育の手引き』を活用した授業実践を積み重ねた。防災意識を高めながら、郷土愛を並行して育むことを確認した。 【授業づくり研究班】 ・「深い学びの実現を図る授業改善」をテーマとして、『学びのつながり』『考えを深める学習活動の工夫』の 2 つのキーワードに基づいて授業づくりに取り組み、実践を深めた。 ・一関市立千厩小学校での学校公開研究会への視察を行い、今求められている授業について理解を深めた。 【幼保小連携推進委員会】 ・小学校の生活科が教科間の横のつながりと幼児期からの発達段階に応じた縦のつながりとの結節点であることを意識しながら交流活動等を計画的に進めた。 ○教育研究所研究発表大会（令和 8 年 1 月 9 日） ・岩手県教育委員会学力向上担当課長より講演いただき、確かな学力の育成・学力向上の鍵は授業の手立ての工夫にとどまらず、教科の本質に迫る教材研究や教材解釈にあるということ、主体的・対話的な学習を目的化するのではなく深い学びにつながる教科内容そのものを問い直すことが必要であることなどを学び、授業改善の視点を改めて見直す重要性を確認した。 ○若葉教室の運営 ・教育支援教室（若葉教室）において、心身の不安や悩み、登校への不安等を抱える児童生徒に対する支援及び指導を行った。 ・児童生徒及び保護者からの相談に応じ、適切な支援を行った。		

取組による 成果と課題	【成果】 研究班及び幼保小連携推進委員会において研究・研修を進め、その成果を全教職員で共有することで、防災教育の充実や授業改善、幼保小連携の推進を図ることができた。 また、教育支援教室（若葉教室）では、学校と情報共有しながら、児童生徒一人一人の状況に応じた支援を行った。 【課題】 児童生徒に必要な資質・能力を育成するため、授業改善を継続し、教職員の授業力・指導力の向上を図る必要がある。 また、多様な教育的ニーズに対応するため、学校や関係機関との連携を一層充実させる必要がある。 若葉教室の運営においては、学校との情報共有及び関係機関との連携体制のさらなる充実を図るとともに、アウトリーチ支援員を活用し、不登校傾向にある児童生徒やその家庭に対する早期支援及び継続的な支援の充実を図る必要がある。
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業	令和 7 年度 決算額	290,000 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	児童生徒の安心・安全な登下校ならびに児童生徒一人一人の交通安全に対する意識の向上につなげるもの。		
取組内容	○スクールガードリーダーの委嘱 ・市内全体の安全確保等を強化するため、スクールガードリーダー（1 名）を委嘱し、市内の巡回指導及び見守り活動により、情報共有、評価を行い、安心・安全の確保に努めた。 ○登下校時の見守り ・毎日のように登校・下校の時間帯に各校の児童生徒の見守りと安全指導を行った。登下校に関して学校に情報提供し、学校との連携を図った。 ○市内巡回パトロール ・下校時間に合わせて各小学校周辺をパトロールした。低学年の下校時刻から巡回を始め、高学年の下校時刻まで実施した。 ○スクールガードとの情報共有、スクールガードへの指導助言 ・各校の副校長と登下校の様子や通学路の危険箇所等について情報交換した。副校長から各スクールガードに情報共有をお願いした。		
取組による 成果と課題	【成果】 年間を通じて児童生徒が安全に登下校することができるように見守りを継続したことで、児童生徒の交通安全に対する意識の向上が見られた。今後も、安全な登下校となるように見守りや指導を続けていく。 【課題】 スクールガードリーダーが高齢であり、次のリーダーを育成する必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	特別支援教育支援員配置事業	令和 7 年度 決算額	53,855,209 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	様々な障がいのある児童生徒への学校生活上の介助や学習活動上の支援を行う支援員を配置し、当該児童生徒の学校生活の充実を図るもの。		
取組内容	各学校に特別支援教育支援員を配置し、支援を必要としている児童生徒に対し適切な支援を行った。 【配置校】 釜石小、双葉小、白山小、平田小、小佐野小、甲子小、鵜住居小、唐丹小 釜石中、甲子中、釜石東中、大平中 【配置人数】 19 名		
取組による 成果と課題	【成果】 障がいのある児童生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上の支援を行うことができた。 これまで教職員が担っていた支援が必要な児童生徒への対応について、支援員が関わることにより、教職員の負担軽減が図られた。 【課題】 障がいのある児童生徒は増加傾向だが、現在の人数では必要としているすべての学校に対し十分な配置ができていない。増員するためには予算の確保が必要である。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	こころのケア事業	令和 7 年度 決算額	1,095,561 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	子どもたちやその保護者、教職員の震災によるストレス障害などを早期に把握し、教育現場におけるきめ細やかなケアに対応するもの。		
取組内容	○スクールカウンセラー（臨床心理士）が各学校を巡回（県派遣2人＋配置型2人）し、カウンセリングを実施した。 ・ 小学校:児童 676回、保護者 41回、教職員156回 ・ 中学校:生徒 588回、保護者 64回、教職員340回 ○児童生徒、保護者、教職員との定期的な面談の実施。 ○スクールカウンセラーによる校内研修会での講義、サポート授業でのチームティーチングの実施。 ○保護者や教職員へ対し、様子が気になる児童生徒への対応について、日常における支援の助言をした。 ○スクールソーシャルワーカーや関係機関へつなげるきっかけ作りを行った。		
取組による 成果と課題	【成果】 児童生徒や保護者の面談を行い、サポートすることで、心のケアを図ることができた。定期的な面談の他に緊急を要する面談にも対応した。 【課題】 面談を希望する児童生徒・保護者が多く、日程や時間の確保が難しい。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	スクールバス運行事業（小中学校費）	令和 7 年度 決算額	小学校費 25,064,592 円																													
担当課	教育委員会事務局学校教育課		中学校費 16,510,580 円																													
目 的	遠距離通学の児童生徒の通学手段を確保するためスクールバス及びタクシーを運行するもの。																															
取組内容	【スクールバス利用児童生徒数】 ※令和 7 年 12 月 1 日時点 <小学校> 104人																															
	<table><tr><td>学校名</td><td>児童数</td><td>学校名</td><td>児童数</td><td>学校名</td><td>児童数</td></tr><tr><td>釜石小</td><td>0 人</td><td>平田小</td><td>8 人</td><td>鵜住居小</td><td>31 人</td></tr><tr><td>双葉小</td><td>0 人</td><td>小佐野小</td><td>0 人</td><td>栗林小</td><td>2 人</td></tr><tr><td>白山小</td><td>0 人</td><td>甲子小</td><td>40 人</td><td>唐丹小</td><td>23 人</td></tr></table>			学校名	児童数	学校名	児童数	学校名	児童数	釜石小	0 人	平田小	8 人	鵜住居小	31 人	双葉小	0 人	小佐野小	0 人	栗林小	2 人	白山小	0 人	甲子小	40 人	唐丹小	23 人					
	学校名	児童数	学校名	児童数	学校名	児童数																										
	釜石小	0 人	平田小	8 人	鵜住居小	31 人																										
	双葉小	0 人	小佐野小	0 人	栗林小	2 人																										
	白山小	0 人	甲子小	40 人	唐丹小	23 人																										
	<中学校> 77人																															
	<table><tr><td>学校名</td><td>生徒数</td><td>学校名</td><td>生徒数</td><td>学校名</td><td>生徒数</td></tr><tr><td>釜石中</td><td>9 人</td><td>釜石東中</td><td>38 人</td><td>大平中</td><td>5 人</td></tr><tr><td>甲子中</td><td>16 人</td><td>唐丹中</td><td>9 人</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>			学校名	生徒数	学校名	生徒数	学校名	生徒数	釜石中	9 人	釜石東中	38 人	大平中	5 人	甲子中	16 人	唐丹中	9 人	－	－											
	学校名	生徒数	学校名	生徒数	学校名	生徒数																										
	釜石中	9 人	釜石東中	38 人	大平中	5 人																										
甲子中	16 人	唐丹中	9 人	－	－																											
【スクールタクシー利用児童生徒数】																																
<小学校> 5人（釜石小 2 人、鵜住居小 3 人）																																
<中学校> 1人（釜石中1人）																																
【運行状況】																																
<table><tr><td>路線</td><td>対象学校</td><td>運行車両</td></tr><tr><td>橋野</td><td>栗林小、鵜住居小、釜石東中</td><td>登校：中型バス 下校：中型バス、マイクロバス</td></tr><tr><td>箱崎白浜</td><td>鵜住居小、釜石東中</td><td>登校：マイクロバス 2 台 下校：マイクロバス 1 台</td></tr><tr><td>両石</td><td>鵜住居小、釜石東中</td><td>登校：タクシー 下校：中型バス</td></tr><tr><td>尾崎白浜</td><td>平田小、大平中</td><td>ワゴン車</td></tr><tr><td>花露辺</td><td>唐丹小、唐丹中</td><td>マイクロバス</td></tr><tr><td>大石</td><td>唐丹小、唐丹中</td><td>マイクロバス</td></tr><tr><td>大橋</td><td>甲子小、甲子中</td><td>登校：中型バス 2 台 下校：中型バス 1 台</td></tr><tr><td>上小川</td><td>小佐野小、釜石中</td><td>マイクロバス</td></tr><tr><td>新浜町</td><td>釜石小、釜石中</td><td>タクシー</td></tr></table>			路線	対象学校	運行車両	橋野	栗林小、鵜住居小、釜石東中	登校：中型バス 下校：中型バス、マイクロバス	箱崎白浜	鵜住居小、釜石東中	登校：マイクロバス 2 台 下校：マイクロバス 1 台	両石	鵜住居小、釜石東中	登校：タクシー 下校：中型バス	尾崎白浜	平田小、大平中	ワゴン車	花露辺	唐丹小、唐丹中	マイクロバス	大石	唐丹小、唐丹中	マイクロバス	大橋	甲子小、甲子中	登校：中型バス 2 台 下校：中型バス 1 台	上小川	小佐野小、釜石中	マイクロバス	新浜町	釜石小、釜石中	タクシー
路線	対象学校	運行車両																														
橋野	栗林小、鵜住居小、釜石東中	登校：中型バス 下校：中型バス、マイクロバス																														
箱崎白浜	鵜住居小、釜石東中	登校：マイクロバス 2 台 下校：マイクロバス 1 台																														
両石	鵜住居小、釜石東中	登校：タクシー 下校：中型バス																														
尾崎白浜	平田小、大平中	ワゴン車																														
花露辺	唐丹小、唐丹中	マイクロバス																														
大石	唐丹小、唐丹中	マイクロバス																														
大橋	甲子小、甲子中	登校：中型バス 2 台 下校：中型バス 1 台																														
上小川	小佐野小、釜石中	マイクロバス																														
新浜町	釜石小、釜石中	タクシー																														
スクールバス基本稼働台数 9 台																																

取組による 成果と課題	【成果】 遠距離通学の児童生徒の通学手段を確保するとともに、冬期には利用対象者を拡大することで、登下校時の安全確保を図ることができた。 【課題】 初年度登録から 10 年以上経過している車両が多く、故障が生じる可能性が高くなっていることに加え、学校の統廃合により必要台数に変動が生じることから、計画的にスクールバスの更新・台数調整をしていく必要がある。
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	スクールバス購入事業	令和 7 年度 決算額	11,393,558 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	市所有のスクールバスは初年度登録から 10 年以上経過しているものが多く、経年劣化も著しいことから故障が多いため、児童生徒の安全及びスクールバスの適切な運行のため、スクールバスの更新を行うもの。		
取組内容	鵜住居小・釜石東中が利用する箱崎白浜地区からのスクールバス運行ルートではカーブや坂が多く、冬期の路面凍結時にはスリップの危険性があるため、四輪駆動のマイクロバスを購入し、当該ルートに導入した。		
取組による 成果と課題	【成果】 新規車両を導入したことで登下校時の安全性が増し、今後保有車両の更新が進められることで安定的な登下校支援が可能となる。 （購入車両）三菱・ローザ 29 人乗り（四輪駆動） 【課題】 ・老朽化が進んでいる他の車両を更新していく必要がある。 ・学校の統廃合、児童生徒数の減少を精査しながら、適切な規模・台数を確保していく必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	学校図書館図書購入費（小中学校費）	令和 7 年度 決算額	小学校費 1,754,326 円																																																			
担当課	教育委員会事務局学校教育課		中学校費 1,481,292 円																																																			
目 的	児童生徒の読書環境の推進に向けて、小中学校の図書整備を計画的に進め、教育環境の充実を図るもの。																																																					
取組内容	国が示す学校図書標準に基づき各小中学校の図書館図書を購入した。																																																					
	<table><tr><td>学校名</td><td>購入冊数</td><td>図書館図書購入費</td></tr><tr><td>釜石小学校</td><td>79 冊</td><td>195,943 円</td></tr><tr><td>双葉小学校</td><td>90 冊</td><td>196,000 円</td></tr><tr><td>白山小学校</td><td>34 冊</td><td>75,000 円</td></tr><tr><td>平田小学校</td><td>93 冊</td><td>196,000 円</td></tr><tr><td>小佐野小学校</td><td>141 冊</td><td>318,500 円</td></tr><tr><td>甲子小学校</td><td>126 冊</td><td>318,500 円</td></tr><tr><td>鵜住居小学校</td><td>80 冊</td><td>196,000 円</td></tr><tr><td>栗林小学校</td><td>32 冊</td><td>73,183 円</td></tr><tr><td>唐丹小学校</td><td>73 冊</td><td>125,800 円</td></tr><tr><td>小学校 計</td><td>748 冊</td><td>1,694,926 円</td></tr><tr><td>釜石中学校</td><td>210 冊</td><td>513,420 円</td></tr><tr><td>甲子中学校</td><td>180 冊</td><td>298,384 円</td></tr><tr><td>釜石東中学校</td><td>84 冊</td><td>208,060 円</td></tr><tr><td>唐丹中学校</td><td>60 冊</td><td>126,420 円</td></tr><tr><td>大平中学校</td><td>92 冊</td><td>212,008 円</td></tr><tr><td>中学校 計</td><td>626 冊</td><td>1,358,292 円</td></tr></table>			学校名	購入冊数	図書館図書購入費	釜石小学校	79 冊	195,943 円	双葉小学校	90 冊	196,000 円	白山小学校	34 冊	75,000 円	平田小学校	93 冊	196,000 円	小佐野小学校	141 冊	318,500 円	甲子小学校	126 冊	318,500 円	鵜住居小学校	80 冊	196,000 円	栗林小学校	32 冊	73,183 円	唐丹小学校	73 冊	125,800 円	小学校 計	748 冊	1,694,926 円	釜石中学校	210 冊	513,420 円	甲子中学校	180 冊	298,384 円	釜石東中学校	84 冊	208,060 円	唐丹中学校	60 冊	126,420 円	大平中学校	92 冊	212,008 円	中学校 計	626 冊	1,358,292 円
	学校名	購入冊数	図書館図書購入費																																																			
	釜石小学校	79 冊	195,943 円																																																			
	双葉小学校	90 冊	196,000 円																																																			
	白山小学校	34 冊	75,000 円																																																			
	平田小学校	93 冊	196,000 円																																																			
	小佐野小学校	141 冊	318,500 円																																																			
	甲子小学校	126 冊	318,500 円																																																			
	鵜住居小学校	80 冊	196,000 円																																																			
	栗林小学校	32 冊	73,183 円																																																			
	唐丹小学校	73 冊	125,800 円																																																			
	小学校 計	748 冊	1,694,926 円																																																			
	釜石中学校	210 冊	513,420 円																																																			
	甲子中学校	180 冊	298,384 円																																																			
	釜石東中学校	84 冊	208,060 円																																																			
	唐丹中学校	60 冊	126,420 円																																																			
	大平中学校	92 冊	212,008 円																																																			
	中学校 計	626 冊	1,358,292 円																																																			
	・小学校向け新聞（各校 1 紙） 59,400 円																																																					
・中学生向け新聞（各校 2 紙） 123,000 円																																																						
取組による 成果と課題	【成果】 新たな図書を加えて時代に合わせた図書館づくりをしていくことで、児童生徒や教職員の情報ニーズへの対応、学習支援や情報の収集・選択・活用能力を育むことが図られた。また、図書室に子ども向け新聞を配備し、児童生徒の社会への関心を高めることができた。																																																					
	【課題】 図書の購入のほか、各校の蔵書数の把握や図書の更新など環境整備を進めるとともに、授業等での図書館・蔵書の利活用を進める必要がある。																																																					
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)																																																					

事業名	学校適応支援員配置事業	令和 7 年度 決算額	14,185,082 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	主に別室登校の児童生徒への学習支援や個別支援を行う支援員を配置し、長期欠席になることを防ぎ、不登校生徒の減少及び改善を図るもの。		
取組内容	市内中学校 5 校及び市内小学校 3 校（全て中学校と兼任）に学校教育支援員を配置し、主に別室登校の児童生徒に対し、各種支援（学習支援、進路選択に関する支援等）を行った。 【配置校】 釜石中、甲子中、釜石東中、唐丹中、大平中、甲子小（甲子中と兼任）、鵜住居小（釜石東中と兼任）、唐丹小（唐丹中と兼任） 【配置人数】 5 名（中学校に各 1 名配置、そのうち 3 名は小学校と兼任）		
取組による 成果と課題	【成果】 支援員を常時配置したことで、教室以外の居場所が確保され、教室への入室が難しい児童生徒にとっても安心して登校できる環境の整備が図られている。 また、従来の教員定数では十分に対応できなかった支援について、支援員が対応することにより、個に応じた支援の充実と教職員の負担軽減が図られている。 【課題】 市内中学校には学校教育支援員を配置しているものの、小学校においても不登校や別室登校の児童が増加傾向にあることから、支援を必要とする児童生徒への対応の充実が課題となっている。 このため、令和 8 年度から配置するアウトリーチ支援員を効果的に活用し、児童生徒や家庭への早期支援と継続的な支援の充実を図るとともに、不登校の未然防止や改善につなげていく必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	外国都市交流事業	令和 7 年度 決算額	8,213,504 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	・国際理解を推進し、もって当市の多文化共生の推進を図るもの。 ・当市の国際化に貢献できる人材を育成するもの。		
取組内容	国際姉妹都市であるディーニュ・レ・バン市（フランス）との交流を推進し、外国人および異文化に触れる機会を創出することで、国際感覚の醸成を図った。 【中学生海外派遣】 ・派遣前研修：全 6 回（令和 7 年 10 月 31 日～12 月 12 日） ・派遣期間：令和 8 年 1 月 6 日～13 日（7 泊 8 日） ・派遣者：市内中学生 6 人（釜石中 3 人、甲子中 2 人、唐丹中 1 人） ・派遣先：フランス共和国（ディーニュ・レ・バン、パリ、マルセイユ）		
取組による 成果と課題	【成果】 ・ディーニュ・レ・バン市との交流を継続することができた。 ・事業参加前の国際交流への関心度（指標 0～100）は平均 70（100：1 人、80：1 人、70：1 人、60：2 人、50：1 人）だったものが、事業参加後は平均 93（100：5 人、60：1 人）となった。なお、事業参加後の関心度が 60 だった参加者は、事業参加前は 50 であり、参加者全員の関心度が向上している。 【課題】 ・派遣生徒には大きな学びや成長が見られる一方で、その学びや経験を他の児童生徒や地域住民へ広く発信し、国際理解や多文化共生の推進につなげる取組を充実させる必要がある。 ・円安や物価高騰の影響により海外派遣に係る経費が増加傾向にあることから、限られた財源の有効活用の観点から、事業成果と事業費とのバランスを検証し、事業の実施手法や継続のあり方について検討していく必要がある。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	部活動地域移行事業【新規】	令和 7 年度 決算額	453,600 円
担当課	教育委員会事務局学校教育課		
目 的	・ 少子化が進む中でも生徒のニーズに応じた多様な運動・文化活動を提供し、生徒が将来にわたり運動・文化活動に継続して親しめる環境を確保するとともに、質の高い指導を実現する。 ・ 教員の部活動負担を軽減し、授業や生徒指導に専念できる環境を整える。 ・ 地域全体で活動を支え、部活動を持続可能な仕組みに転換する。		
取組内容	・ 地域と連携し、学校単位の部活動を、地域クラブや民間団体等が担う形へ段階的に展開していく。 ・ 地域クラブへの展開が困難な部活動に部活動指導員を配置する。		
取組による 成果と課題	【成果】 新たに部活動指導員を導入したことで、部活動地域展開と教員の働き方改革の促進が図られた。 (配置校／部活動) ※主に休日の部活動で活動 ・ 甲子中学校／卓球部 1 人 ・ 釜石東中学校／卓球部 1 人 ・ 唐丹中学校／バドミントン部 1 人 【課題】 ・ 地域クラブが部活動の受け皿となれるよう、地域クラブの体制整備や指導者育成を進めていく必要がある。 ・ 地域クラブへ移行した際の費用負担、移動手段等に係る課題を整理しつつ、この対応について検討する必要がある。 ・ 地域クラブへの移行が難しい部活動について、部活動指導員となり得る人材の育成及び確保を進めていく必要がある。		
評価結果	■ 拡充(継続) □ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

基本施策 3
実施施策

生涯学習・スポーツの振興

(1) 学びと実践が循環しつながり創出する生涯学習社会の形成

事業名	釜石市はたちのつどい開催事業	令和 7 年度 決算額	664,380 円
担当課	まちづくり課		
目 的	成人の日を記念し、若者の門出を祝うとともに、市民及び市に縁のある者としての自覚を促し、社会人としての権利と義務・責任を全うできるよう激励の意味を込めて式典を開催するもの。		
取組内容	年度内に 20 歳となる人を主体とした実行委員会形式により、特色のあるつどいを実行委員が自ら創り上げ、門出を祝う式典を開催した。 〔時期〕 令和 8 年 1 月 11 日（日） 14 時～16 時 〔場所〕 釜石市民ホール TETTO 〔対象〕 平成 17 年 4 月 2 日から平成 18 年 4 月 1 日までに生まれた方 〔参加者数〕 427 人（対象者 203 人、一般来場者 160 人、主催者 6 人、来賓 29 人、従事者 29 人）※マスコミ 6 社 ・式典内で実行委員会制作のビデオメッセージ、中学校及び高校恩師からのビデオメッセージの上映、参加者有志による郷土芸能（虎舞）などを披露した。 ・釜石商工会議所青年部の協力を得てフォトスポットを 2 カ所に設置した。 ・釜石コンパスでの活動（対象者の高校時代の活動内容）を展示した。 ・対象者への記念品として、タンブラーを贈呈した。（制作協力：NPO 法人遠野まごころネット まごころ就労支援センター） ・茶道協会の協力により、茶席の設置を行った。 ・釜石市国際外語大学校の学生等、市内在住外国人対象者の出席があった。		
取組による 成果と課題	【成果】 本年度も式典の対象となる参加者を委員とした実行委員会を組織し、式典内で実行委員制作によるビデオメッセージや中学校・高校時代の恩師ビデオメッセージの上映を行ったほか、参加者有志による郷土芸能の披露、市民憲章・防災市民憲章の唱和を行った。 また、釜石市国際外語大学校日本語学科の開設に伴い、外国人対象者の参加も増加してきている。 【課題】 毎年度、実行委員会を組織して式典内容等を検討しているものの、内容の固定化も見られることから、今後も円滑な式典運営を心がけつつ、特色ある式典内容等の検討を行いたい。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	生涯学習によるまちづくり推進事業	令和 7 年度 決算額	191,110 円																	
担当課	まちづくり課																			
目 的	市民と行政が共に釜石市の現状と課題、施策などを理解するとともに、主体的にまちづくりへの参画を促進するための意識の喚起、場を創出することが必要になることから、生涯学習に関する諸事業を実施するもの。																			
取組内容	①こどもエコクラブ 自然の中でのさまざまな体験を通じて、自然環境への理解を深め、環境保全に配慮した行動をとることができる資質を育むことを目的に、小学生を対象に実施した。 〔登録会員数〕 小学生 32 人 〔内容〕 ・ 6. 14／世界遺産で森のプールづくり／21 人 ・ 7. 29／デイキャンプ／23 人 ・ 8. 8／エコクラフト／12 人 ・ 9. 13／トンボ・昆虫観察会／19 人 ・ 12. 20／海洋プラスチックの状況を学ぶ／12 人 ・ 1. 24／水辺の鳥観察会／15 人																			
	②立正大学デリバリーカレッジ 市民が生涯学習に関心を持ち実践するきっかけとなるよう「知的刺激と感動を得られる生涯学習」の機会を提供するため、開催した。 ・ 6. 28／紀州ドンファン殺人事件無罪判決について～裁判員はなぜ無罪を選択したのか～／30 人 ・ 7. 5／宮崎駿監督「崖の上のポニョ」と押井守監督「スカイ・クロラ」～それでも「子供たち」「若い人たち」に向かうということ～／22 人 ・ 7. 12／スポーツを通じた地域・ヒトづくり／28 人																			
	③生涯学習まちづくり出前講座 生涯学習意識の高揚と学習機会の提供を図り、地域課題とその解決について考えることを目的として実施した。 ＜講座メニュー＞ 168 講座（市によるもの 77 講座、関係機関によるもの 24 団体 91 講座） ＜実施回数及び受講者数＞																			
	<table><tr><td>年度</td><td>令和 3 年度</td><td>令和 4 年度</td><td>令和 5 年度</td><td>令和 6 年度</td><td>令和 7 年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>44 回</td><td>68 回</td><td>69 回</td><td>64 回</td><td>59 回</td></tr><tr><td>人数</td><td>674 人</td><td>1, 115 人</td><td>1, 355 人</td><td>1, 363 人</td><td>1, 309 人</td></tr></table>			年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	回数	44 回	68 回	69 回	64 回	59 回	人数	674 人	1, 115 人	1, 355 人	1, 363 人
年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度															
回数	44 回	68 回	69 回	64 回	59 回															
人数	674 人	1, 115 人	1, 355 人	1, 363 人	1, 309 人															
	④「かまいし本のまちプロジェクト」の推進 読書に親しめる環境づくりを推進するため、図書館や各地区生活応援センタ																			

	ーを中心に「読書」を楽しみ、「知的好奇心あふれるまち」を目指し、ポスターコンクールやまちなか図書館の設置など各種事業を実施した。
取組による 成果と課題	【成果】 ①こどもエコクラブ 毎回の出席率も高くなっていることから、この事業に対する関心の高さが伺える。今後も引き続き、環境に対して子どもたちが関心、興味を持てるような内容を継続して実施する。 ②立正大学デリバリーカレッジ 今年度は3日間とも対面形式で開催することができた。 参加者が増加傾向にあり、また、講座終了後に行ったアンケートでは、内容に満足しているとの回答が多かった。 ③生涯学習まちづくり出前講座 実施回数等が減少したものの、参加人数は横ばいの傾向にある。特に小中学校から、農業体験や総合的な学習の時間を活用した申し込みが増加しているほか、釜石市国際外語大学校での活用もあった。 ④かまいし本のまちプロジェクト 市民対象に機運醸成を図ることに注力し、「広報かまいし」内に「おすすめ本の紹介」ページを確保するなど、市民への情報提供を行うことができた。 【課題】 ①こどもエコクラブ 講座当たりの参加率は高いものの、講座内容が固定化されてきており、会員数が減少傾向にあることから、講座内容を検討し、会員数の増加に努めていく。 ②立正大学デリバリーカレッジ 参加者のアンケート結果を考慮した講座内容の検討や、若年層にアプローチする周知方法などを検討していく。 ③生涯学習まちづくり出前講座 利用者が固定化されていることから、関係部署や関係機関と協力のうえ魅力あるメニューの設定に努めるとともに、今後も事業周知及び利用促進のための広報活動を継続していく必要がある。 ④かまいし本のまちプロジェクト 書店や学校との連携を進め、子どもの読書活動をはじめとした読書推進に係る各種事業のさらなる展開を図りたい。
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)

事業名	教育振興運動協議会活動補助金	令和 7 年度 決算額	180,000 円
担当課	まちづくり課		
目 的	地域の教育力向上と、子どもたちの生涯にわたって学び続ける意欲・態度を育成し、併せて大人自らの生涯学習機会となる教育振興運動の推進のため、釜石市教育振興運動協議会が行う事業に要する経費に対して補助金を交付するもの。		
取組内容	各実践区（中学校区）において、5 者（子ども、保護者、学校、地域、行政）がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携して行う地域の教育課題の解決に取り組む活動を支援し、地域の教育力向上を図るため、情報提供や情報交換、実践活動への補助等を行った。 〔活動内容〕 協議会総会、集約集会、各実践区による活動、教振だよりの発行など 〔研修等〕 ・ 地域とともにある学校づくり推進フォーラム 7.1／大船渡市立三陸公民館／釜石市から 23 人 ・ 釜石市教育振興運動協議会集約集会（共催） 2.7／釜石 P I T／48 人		
取組による 成果と課題	【成果】 全ての各実践区において全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」に取り組んだ他、あいさつ運動や交通安全、復興教育など地域の実情に応じて多様な活動を行うことができた。 集約集会においては、「コミュニティスクール推進協議会」を兼ねて開催し、「まち全体が学びの学校」というテーマで、甲子小学校及び釜石東中学校に事例紹介いただいた他、岩手大学から講師を招き、地域全体が子どもの育ちと学びの場であり、地域・家庭・学校がつながることによる地域ぐるみの教育活動の可能性について理解を深めた。 【課題】 各実践区での活動が固定化されつつあることから、今後も子どもを中心とした地域ぐるみの教育活動が継続的に実践できるよう、他自治体の事例なども活用しながら特色ある事業展開に努めるとともに、教育振興運動とコミュニティスクール及び地域学校協働活動の連携の在り方について模索していく必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	放課後子ども教室推進事業	令和 7 年度 決算額	3,111,283 円
担当課	まちづくり課		
目 的	子どもたちが安心して遊び学ぶことのできる教育環境を確保するため、放課後における子どもの活動拠点を設け、地域住民等の参画を得て、自由遊びの見守りのほか、多様な学習機会を提供するもの。		
取組内容	〔時期〕 通年 〔対象〕 子ども、地域住民 〔教室名／場所／実施日〕 ①ばしょまえ交流館／釜石公民館／週 1 回（釜石小学校区） ②ふたば放課後子供教室／双葉小学校地域連携室／週 1 回（双葉小学校区） ③小佐野放課後ひろば／小佐野公民館／隔週 1 回（小佐野小学校区） ④平田 MOSICA／平田復興住宅集会室／週 1 回（平田小学校区） ⑤かっしっこひろば／甲子公民館／週 1 回（甲子小学校区） ⑥鶴住居子どもひろば／日向・新川原集会所、砂子畑集会所等 ／週 3 回（鶴住居・栗林小学校区） 〔1 回あたりの子どもの参加人数〕 16.6 人		
取組による 成果と課題	【成果】 令和 6 年度から「ふたば放課後子供教室」が再開されたこともあり、放課後子ども教室 1 回あたりの子どもの参加人数は増加傾向にある。また、協働活動支援員の各校への周知等により、放課後子ども教室への理解浸透が図られている。 【課題】 子どもの活動の見守りや学習サポートを行う協働活動サポーター（安全管理員）の確保が十分にできず、実施回数が十分に確保できない教室もあることから、様々な機会を活用し、放課後子ども教室の実施を周知するとともに、学童育成クラブや児童館との連携を検討するなど、活動のさらなる展開を図りたい。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	地域学校協働活動体制推進事業	令和 7 年度 決算額	4,189,468 円
担当課	まちづくり課		
目 的	地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもの成長を支えていく地域学校協働活動の推進体制（地域学校協働本部）を設置し、地域コーディネーター配置のもと、地域住民等の参画を得ながら、学校支援活動をはじめとする様々な地域学校協働活動を行うもの。		
取組内容	〔本部設置校〕 釜石小学校、双葉小学校、白山小学校、平田小学校、小佐野小学校、甲子小学校、栗林小学校、唐丹小学校 〔活動回数〕 8 校 969 回 〔地域住民等の参画人数〕 8 校 延べ 5,963 人 〔研修等〕 ・地域とともにある学校づくり推進フォーラム 7.1／大船渡市立三陸公民館／釜石市から 23 人 ・地域学校協働活動推進員（コーディネーター）研修地区別講座 10.2／大船渡地区合同庁舎／釜石市から 5 人 ・釜石市地域学校協働本部地域コーディネーター研修会（情報交換会） 8.8／釜石市役所第 2 会議室 3.25／釜石市役所第 3 会議室		
取組による 成果と課題	【成果】 令和 4 年度より市内全学区に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が設置されたことに併せ、地域学校協働本部を市内小学校 8 校に設置している。 活動参画者数に変動はあるものの、活動回数は増加傾向にあり、地域コーディネーターの連絡調整等によって、各本部で子どもたちに多様な学習機会を提供することができた。 【課題】 地域コーディネーターを確保できず、地域学校協働本部の設置に至らない学校があった。また、本部設置校においても活動内容等に差がある。今後は、地域コーディネーターの確保や地域コーディネーター同士の情報交換等を行うとともに、学校運営協議会や教育振興運動との連動を図るなど、地域学校協働活動のさらなる推進を図りたい。		
評価結果	■ 拡充(継続) □ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	図書館管理運営費	令和 7 年度 決算額	19,403,094 円																		
担当課	まちづくり課図書館																				
目 的	市民の生涯学習の拠点として読書活動の推進を図ることを目的に、図書資料の充実・整備及び各種図書館サービスの提供に努めるとともに、図書館施設の適切な維持管理を行う。																				
取組内容	・利用者ニーズや地域の実情に配慮し、図書資料の整備を進めるとともに、図書展・企画展・巡回展やミニ展示の開催、図書館報の発行、手づくり絵本教室の実施などにより学習活動を支援した。 ・市民教養講座や戦争朗読会の開催により多様な学習機会を提供したほか、子ども向け行事（こどもまつり、クリスマス会、映画会、おはなし広場等）を実施した。 ・移動図書館車の運行や絵本カーによる訪問、市内小学校等への団体貸出を行うとともに、館内修繕や樹木剪定など施設の適正な維持管理に努め、サービス環境の充実を図った。 【利用状況】 <table><tr><td>年 度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td></tr><tr><td>利用人数（人）</td><td>20,794</td><td>20,136</td><td>20,796</td><td>21,436</td><td>20,190</td></tr><tr><td>貸出冊数（冊）</td><td>82,389</td><td>77,338</td><td>80,364</td><td>84,349</td><td>79,877</td></tr></table>			年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	利用人数（人）	20,794	20,136	20,796	21,436	20,190	貸出冊数（冊）	82,389	77,338	80,364	84,349	79,877
年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度																
利用人数（人）	20,794	20,136	20,796	21,436	20,190																
貸出冊数（冊）	82,389	77,338	80,364	84,349	79,877																
取組による 成果と課題	【成果】 ・利用人数等は減少したが、団体貸出や学校連携は増加し、利便性の向上が見られる。 ・社会の変化や地域の実情を反映した図書展示や、自主グループ・関係団体との連携による各種事業の実施を通じて、図書館に対する市民の理解と関心が深まっている。 【課題】 ・各種イベントは充実しているが、利用者増加に向けた図書館サービスの周知が課題である。 ・経年劣化が進む施設設備の適正な維持管理が必要である。																				
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)																				

事業名	ブックスタート整備充実事業	令和 7 年度 決算額	91,467 円
担当課	まちづくり課図書館		
目 的	赤ちゃんと保護者が、絵本を介して向き合い、あたたかくて楽しいことばの交流を持つことができるよう、ブックスタート活動を行うもの。		
取組内容	・市健康推進課が実施する離乳食指導「もぐもぐ・ごっくん教室」（生後 5～6 か月児対象）にあわせて、ブックスタート事業を実施した。図書館が「赤ちゃんの駅」認定施設であることを説明し、ブックスタートガイドブックおよび図書館利用案内を配布した後、ボランティア団体「颯・2000」による乳幼児向け絵本の紹介を兼ねた読み聞かせの実演を行った。（10 回、乳児 69 人） ・市健康推進課が実施する「6 か月児健診」にあわせて、ブックスタート事業を実施した。健診を受診した乳児に対し、絵本を 1 冊贈呈した。（11 回、乳児 84 人） ・図書館内のブックスタートコーナー付近に、子育てに関するパンフレットやチラシを配置するとともに、おすすめ絵本の展示・貸出を行うなど、子育て世代が利用しやすく、過ごしやすい環境づくりに努めた。		
取組による 成果と課題	【成果】 ・会場内で読み聞かせの実演を行うことにより、乳幼児が本や読み聞かせに興味を持つきっかけとなっており、参加した保護者からも好評を得ている。 ・ブックスタート事業に参加した親子が、図書館内のブックスタートコーナーの利用を目的に来館するケースも多く、図書館利用者の増加につながるとともに、子どもの読書活動の推進など教育面での支援にも寄与している。 【課題】 ・「ブックスタート」の認知度が依然として低いことから、今後は更なる周知および普及啓発活動の強化が必要である。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

基本施策 3
実施施策

生涯学習・スポーツの振興

(2) 豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

事業名	学校体育施設開放事業	令和 7 年度 決算額	549,360 円	
担当課	教育委員会事務局総務課			
目 的	地域住民のスポーツ活動等の場の確保を図るため、学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放するもの。			
取組内容	・ 開放校 12 校（釜石小学校、双葉小学校、白山小学校、平田小学校、小佐野小学校、甲子小学校、栗林小学校、釜石中学校、甲子中学校、釜石東中学校、唐丹中学校、大平中学校）			
	・ 利用団体及び利用人数（延べ人数）			
	年 度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
	利用団体数	823 団体	820 団体	847 団体
	利用者数	37, 155 人	38, 832 人	40, 674 人
取組による 成果と課題	【成果】 学校との連携・協力により、地域住民の継続的なスポーツ活動等の場を確保し、健康増進や体力向上、生涯スポーツの推進に寄与した。 【課題】 施設の利用に関して、一部利用団体によるマナー違反が見られるため、利用者の適正利用に向けた取り組みにより、円滑な事業運営を行う必要がある。			
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)			

基本施策 4**実施施策****歴史・文化・芸術文化の振興****(1) 歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進**

事業名	埋蔵文化財保存事業	令和 7 年度 決算額	6,178,501 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	埋蔵文化財の適切な保護・保存・活用に向けた調査を実施するもの。		
取組内容	市内各地の各種開発が遅滞なく進むよう、開発行為に伴う試掘調査や立会調査を実施した。分布調査については、平成 13 年度から市内の遺跡の詳細分布調査を継続実施し、平成 20 年度からは市内の遺跡を時代別に分けて分布調査を実施し、遺跡の内容把握に努めている。 毎年、市内全遺跡の現状把握を実施しており、令和 7 年度は和山地区を中心に分布調査を実施し、新規の遺跡の登録を 1 件、要登録 1 件、追加登録予定 1 件の埋蔵文化財包蔵地を確認している。 ・埋蔵文化財照会： 21 件（25 ヶ所） ・試掘調査： 1 件（太田林遺跡水道管埋設工事に伴う範囲内容確認調査） 令和 7 年 9 月 29 日（月）～10 月 9 日（木） ・立会調査： 4 件（金子沢遺跡、能舟木 2 遺跡、包蔵地外計 2 件） ・慎重工事： 5 件 ・分布調査：（新規発見）旧笛吹街道（橋野）、沼ヶ沢遺跡（仮称）		
取組による 成果と課題	【成果】 令和 7 年度の埋蔵文化財の分布調査及び試掘調査、立会調査等の調査業務は滞りなく終了した。 岩手県教育委員会や遠野市教育委員会と共に旧笛吹街道の分布調査を行い、近世の道跡が現在まで残存していることを確認した。険しい斜面を九十九折に掘削した痕跡や切通などの遺構が残存していた。 【課題】 令和 7 年 6 月に公開された赤色立体地図により、市内に中世城館跡が 5 件新規に確認された。また、艦砲射撃の着弾痕と思われる土坑が釜石地域を中心に確認されたことから、現地踏査を実施し現状把握に努める必要がある。 加えて、旧道跡も視覚化されたことから、口伝で残る枝街道の分布調査を進め、近世交通網の把握に努める必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	文化財保護事業	令和 7 年度 決算額	1,259,130 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	釜石市に所在する文化財の適正な保護と活用を図るもの。		
取組内容	文化財の適正な保護・活用を図るため、釜石市文化財保護審議会を開催するとともに、市文化財指定を行った。また、市内文化財の保存・周知を図るため、文化財パトロールや説明板の作成・整備等を行った。 ○釜石市文化財保護審議会の開催 4 回 ・第 1 回釜石市文化財保護審議会 6/24(火) ・第 2 回釜石市文化財保護審議会 10/16(木) ・第 3 回釜石市文化財保護審議会 3/16(月) ・釜石市文化財保護審議会(臨時会議) 2/6(金) ○文化財パトロール(文化財保護審議会) 11/6 常龍山碑及び明神かつらの調査 ○文化財調査 4/17 鶴住居街道・笛吹峠道調査、5/29 高地性集落調査(県教委合同)、9/10 久保家(建造物・平田)調査、10/14 大槌町前川家墓碑調査、11/11 鶴住居(観音像)調査、11/19 尾崎神社資料調査、1/13 甲子町柏木家調査 ○文化財指定 ・指定文化財: 松倉太神楽、松倉虎舞 ・指定年月日: 令和 8 年 3 月 25 日(水) ・所 在 地: 甲子町第 10 地割(松倉) ○案内看板等の整備 屋内看板(釜石大鳥瞰図)、屋外看板修正(瀧澤神社)、屋内看板修正(釜石文化財マップ)、指定文化財看板作成(「新道峠(通称: 清水峠)の庚申塔」)		
取組による 成果と課題	【成果】 ・文化財保護審議会においては活発な意見交換がなされ、松倉太神楽及び松倉虎舞が新たに市指定文化財となった。 ・文化財パトロールでは指定文化財候補物件や文化財の現況を確認した。 ・文化財案内看板の新設や既存の看板の更新作業を行った。 【課題】 ・歴史文化遺産の評価方法を検討する必要がある。 ・老朽化した看板や標柱が多く更新が必要な状態にある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	歴史はっけん事業	令和 7 年度 決算額	6,212,684 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	「釜石市文化財保存活用地域計画」を基軸として、埋もれた歴史や文化財を再発見し、子どもから大人まで幅広く伝え、歴史文化の保存・活用を図るもの。		
取組内容	○かまいし歴史文化活用プロジェクト 歴史文化に関する調査や、講演会等を実施し、「自然・人・鉄の歴史文化が融合したまち釜石」の強みをいかして、関係人口の創出につなげる。 ①<u>史跡巡り「高校生とめぐる釜石の戦跡」</u> ～高校生の説明で戦争の記憶を振り返りませんか？～ 開催日：令和 7 年 7 月 21 日（月・祝日） 場所：市内戦跡 案内役：佐藤凜太郎さん・中澤大河さん（釜石高校生徒） 参加者：一般市民 20 人、報道機関 7 人 ②<u>「戦後 80 年釜石と戦災～未来に伝えるために～」</u> 開催日：令和 7 年 8 月 3 日（日） 場所：釜石市民ホール TETTO 開催内容： ・映画上映会 「廃墟と化した鉄の町 釜石艦砲射撃の記録」の上映 来場者数 130 人 ・講演会、パネルディスカッション 講演「わたしの戦争時代の思い出」講師：佐野睦子さん（戦争体験者） 講演「戦争の記憶～未来への継承～」講師：小暮聡子さん（「降伏の時」著者） 「エローイ・リンダイヤさんとメリンダ・バーンハートさんからのメッセージ」 パネルディスカッション コーディネーター 柴田 渥さん（郷土資料館運営委員会委員長） パネラー 佐野睦子さん、小暮聡子さん、千田雅恵さん（颯・2000 代表）、 川村吉さん（甲子中学校教諭）、佐藤凜汰朗さん・中澤大河さん（釜石高校） 質問者 平和・防災学習事業参加の中学生 来場者数 150 人 ・パネル展示 ③<u>講演会『三浦命助と三閉伊一揆』（岩手県指定記念）</u> 開催日：令和 7 年 9 月 14 日（日） 場所：釜石 PIT 講 師：兼平賢治氏（東北学院大学文学部歴史科教授） 来場者数：100 人 ④<u>刊行物・映像記録作成</u> 冊子「戦後 80 年 釜石と戦災～未来につたえるために」（300 冊） リーフレット「釜石市文化財マップ」（5,000 部）		

	リーフレット「戦後 80 年 釜石の戦跡：戦争の記憶と未来への KEISYOU」(5,000 部) DVD「戦後 80 年 釜石と戦災～未来につたえるために」記録映像 DVD 講演「わたしの戦争時代の思い出」佐野睦子さん 記録映像 ⑤<u>古文書データベース作成</u>（野田家文書の一部） ⑥<u>歴史文化遺産調査</u> 9/15 古文書調査（佐野家文書）、9/17 有形文化財（建造物）調査（文化庁視察）、10/7・8 記念物（名勝）調査（文化庁視察） ○かまいしの食文化はっけん事業 地域の特色ある食文化が失われつつあることから、食文化の掘り起し、レシピの収集公開や釜石の食文化の魅力を広く発信し、関係人口創出につなげる。 ①<u>食文化調査</u>（市内食文化リストの作成〔継続〕） ②<u>かまいしの食文化講演会&座談会『かまいしの食文化を考えよう』</u> 開催日：令和 8 年 2 月 15 日（日） 場所：イオンタウンホール 開催内容： 趣旨説明「釜石の食文化について」 文化財課 手塚新太 講演会『かまいしの食文化を考えよう』 講師 大石和男氏 文化庁文化財調査官（食文化部門） 座談会『かまいしの食文化』とは？ 座長 大石和男氏 文化庁文化財調査官（食文化部門） 座談会 藤井サエ子さん、佐々木淳子さん、佐々木かよさん、前川良子さん 参加者：41 人
取組による 成果と課題	【成果】 「釜石市文化財保存活用地域計画」は、当市における文化財等の保存・活用に関するマスタープラン兼アクションプランであり、本計画に沿って目指すべき将来的なビジョンや具体的な事業等の推進が図られた。 【課題】 ・釜石市の文化財等を保存・活用するうえで、調査に偏りがあることから、調査を計画的に継続して行う必要がある。 ・調査を実施するためには、情報収集や専門的知識が必要となることから、市民からの協力を得るとともに、大学や博物館といった学術研究機関との相互協力体制を強化する必要がある。 ・講演会等の参加者数は概ね想定内であったが、広く知ってもらう必要がある。
評価結果	■ 拡充(継続) □ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)

事業名	鉄づくり体験事業	令和7年度 決算額	2,000,000 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	鉄に関する歴史や技術を学ぶため、鉄づくり体験等を通して郷土への関心を高め、アイデンティティの醸成に寄与するもの。		
取組内容	○鉄づくり体験（市内全中学校(5校) 1年生：207人） 高炉を模したミニ炉を作成し、たたら製鐵の技法で鉄づくりに取り組んでいる。市内の子どもたちが義務教育の間に、1度は鉄を通じたモノづくりに触れる機会を創出するため、令和4年度から市内全中学校の1年生を対象に実施している。 ・釜石東中：7/2(水)～3(木) 33人 ・大平中：8/27(水)～28(木) 23人 ・甲子中：9/2(火)～3(水) 33人 ・釜石中：9/4(木)～5(金) 110人 ・唐丹中：9/29(火)～30(水) 8人 ○鑄造体験（市内小学校5年生 ※複式学級は5・6年生で隔年） 鉄製品の制作方法の「鑄造」を学ぶため、キーホルダー作りを実施した。 ・7校 計191人（釜石小、双葉小、鶴住居小、白山小、小佐野小、甲子小、平田小）※令和7年度新規の取り組み ○鉄に関する座学等（中学1年生） 市内各小中学校の要望により、座学や見学（体験）などを実施した。（甲子中、釜石東中、釜石中、唐丹中） ○鉄の検定 小中学生を対象として、鉄に関する疑問や、鉄の魅力などを検定形式で周知し、「鉄のまち釜石」を知る契機とした。 開催日：12月1日の前後一週間 参加者：平田小：5年生（22人）、釜石中：1年生（83人）、釜石東中：1年生（28人）		
取組による 成果と課題	【成果】 ・鉄のまちの歴史を知り、モノづくりの大切さを学び、鉄のまち釜石を知る郷土学習へつなげることができた。鉄づくり体験を通して、学習した成果は各学校の学習発表会等で発表を行い、学習の振り返りを行い郷土愛の醸成が図られた。 ・鉄の検定結果：《1級》：中学生3人 《2級》：中学生7人 【課題】 鉄に関する体験や学習を継続して実施し、より効果的で効率的な郷土学習の在り方と実施の体制を整備していく必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	鉄のふるさと釜石創造事業	令和 7 年度 決算額	354,750 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	鉄に関する地域資源を活かした取り組みを継続的に実施し、釜石の鉄を中心としたものづくり産業に関する歴史及び文化等を情報発信しながら地域の再生を図る。		
取組内容	・鉄のふるさと釜石創造事業実行委員会の開催 ・『かまいしの鐵學』第 4 号の発行 ・鉄の学習発表会の開催		
取組による 成果と課題	【成果】 鉄の学習発表会を海と希望の学園祭と連携させたことで、大学関係者等にも傍聴してもらう機会ができた。 【課題】 鉄のふるさと釜石創造事業実行委員会の活動が、市役所事業の主体となっていてきている。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	屋形貝塚保存活用事業	令和 7 年度 決算額	7,528,256 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	国史跡屋形遺跡を保存・保護・活用し、郷土教育の充実化を図る。		
取組内容	平成 27 年の発掘調査で出土した遺物の貝塚土壌洗浄作業など、遺物の整理作業を実施した。貝層の洗浄では 30 以上ある貝層のうち、17 層の遺物を対象として実施した。 屋形遺跡の史跡整備を進めるため、史跡保存活用計画の策定の準備を行った。		
取組による 成果と課題	【成果】 ・見学看板の設置や景観にそぐわない害獣対策網の撤去を実施した。 ・洗浄した貝層から、大型魚の骨などが発見された他、微小貝の出土が顕著であったため、海草等の有機質資料の痕跡把握につながる可能性がある。 【課題】 ・微小貝の確認には時間と専門性が求められるため、同定に時間がかかり進捗率が下がっている。また、郷土資料館での展示を行う上でも、縄文時代の海草食の可能性を伝える遺物としては有効であるものの、視覚情報で伝えるにくいことから、子どもたちへの学習に使用する際には、わかりやすく伝える手法を模索する必要がある。 ・遺跡の適切な保存、保護に加え、唐丹小中学校をはじめ地元の方々への周知活動を行いながら、遺跡を学びの場として活用することで、さらなる郷土愛醸成につなげる必要がある。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	釜石市郷土芸能祭開催事業	令和 7 年度 決算額	1,301,469 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	市内に伝わる郷土芸能を市内外に広く周知を図り、伝承活動に携わっている団体に活動発表の機会を提供することにより、郷土芸能の次代への確実な伝承と継承者の育成を行う。		
取組内容	第27回釜石市郷土芸能祭を次のとおり開催した。 【日時】 令和8年2月8日（日） 開場：9時30分 開演：10時00分 閉会：14時45分 【場所】 釜石市民ホールTETTO ホールA 【主催】 釜石市、釜石市教育委員会 【後援】 平泉町教育委員会、三陸国際芸術推進委員会 【入場料】 無料 【出演団体】 (1) 市内8団体 尾崎町虎舞（市指定）・平田神楽・外山鹿踊・只越虎舞・田郷鹿子踊・錦町虎舞（市指定）・砂子畑鹿踊（市指定）・東前太神楽（市指定） (2) 市外1団体(平泉町より招聘) 達谷窟毘沙門神楽(平泉町指定無形民俗文化財) 【来場者数】 約 1,000 人		
取組による 成果と課題	【成果】 ・市内外から幅広い年代の方が来場し、多くの方に郷土芸能に触れる機会を創出することができた。 ・アンケート結果でも、「毎回楽しみにしている」、「これからも継続して開催して欲しい」といった声が多く寄せられた。 【課題】 少子高齢化によって存続の危ぶまれる郷土芸能団体が増えており、継承活動の方法を検討する必要がある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	郷土資料館管理運営費	令和 7 年度 決算額	1,897,707 円												
担当課	教育委員会事務局文化財課														
目 的	地域文化を継承するための貴重な文化資料を保管・展示し市民に公開することで、文化との触れ合いの場を提供し、生涯学習の高揚に資することを目的とする。														
取組内容	○企画展の開催(5 回) ・収蔵資料展「暮らし便利に～家電遺産～」 4 月 15 日～6 月 1 日 入館者数：259 人 ・季節資料展 4 月 25 日～6 月 1 日 ・艦砲戦災展「艦砲射撃 80 年～未来に伝えるために～」 7 月 12 日～9 月 8 日 入館者数：466 人 ・鉄の週間事業展「写真で見る一市四ヵ村合併 70 年」 11 月 21 日～1 月 25 日 入館者数：224 人 ・特別展「明治三陸大海嘯 130 年 稲むらの火と小泉八雲 そして釜石」 3 月 6 日～6 月 21 日 入館者数(3/31 まで)：128 人 ○運営委員会関係 ・6 月及び 12 月に運営委員会を開催した。 ○収蔵資料の保存・管理と活用、及び新規資料収集に努めた。(通年) 【入館者の状況】 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>令和 3 年度</td> <td>令和 4 年度</td> <td>令和 5 年度</td> <td>令和 6 年度</td> <td>令和 7 年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>1,981 人</td> <td>2,057 人</td> <td>2,386 人</td> <td>2,011 人</td> <td>2,197 人</td> </tr> </table>			年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	人数	1,981 人	2,057 人	2,386 人	2,011 人	2,197 人
年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度										
人数	1,981 人	2,057 人	2,386 人	2,011 人	2,197 人										
取組による 成果と課題	【成果】 ・収蔵資料展は所蔵資料の有効活用となり、来館者からは昭和を懐かしむ声が多く聞かれた。 ・戦跡巡りや戦後 80 年事業に加え企画展を開催し、二度の艦砲射撃への関心を高める機会となった。 【課題】 ・市制 90 年や 100 年に向けて公式な年表作成が必要。 ・事業及び資料館自体の周知がまだ不足していることから、報道機関との連携や運営委員の協力の他、有効な周知手段が必要。 ・寄贈資料の増加に伴う収蔵庫の慢性的容量不足の解決。														
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)														

事業名	みんなで伝える郷土芸能体験事業 【新規】	令和 7 年度 決算額	767,805 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	釜石の魅力ある豊かな歴史文化を保存・活用しながら、市内のコミュニティの活性化及び関係人口を創出し、釜石ファンの醸成を図る。		
取組内容	郷土芸能体験教室等を通じて、郷土芸能の次世代への継承を促し、地域コミュニティの活性化を目指す。 また、郷土芸能の映像記録保存を行い、継承活動の円滑化や廃絶した場合に復活できる仕組みづくりを行う。 ○郷土芸能体験教室 ・実施日：令和7年8月11日（月・祝） 松倉太神楽、松倉虎舞 ・会場：イオンタウン釜石 2階 眼鏡市場横イベントスペース ・来場者数：130人、体験者数：70人 ○郷土芸能記録保存 ・令和7年10月26日（日） 南部藩壽松院年行司支配太神楽、尾崎町虎舞 ・令和8年3月28日（土） 松倉太神楽、松倉虎舞		
取組による 成果と課題	【成果】 ・郷土芸能体験教室は、イオンタウン釜石で行ったことにより、参加者は想定したよりも多く、敷居が高く参加の難しい郷土芸能に触れる機会を創出することができた。 ・郷土芸能記録保存では、現時点での郷土芸能の状況を記録保存することができ、郷土芸能の継承に寄与することができた。 【課題】 ・郷土芸能体験教室では、体験者や教える側の戸惑いもあることから、体験する内容を整える必要がある。 ・郷土芸能記録保存には、より多くの団体の参加が望まれるが、団体ごとの反応に大きく差があり、積極的な参加を促す必要がある。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

基本施策 4

実施施策

歴史・文化・芸術文化の振興

(2) 橋野鉄鉱山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信

事業名	①橋野高炉跡整備事業 ②橋野高炉跡修復・公開活用事業	令和 7 年度 決算額	①20,175,917 円 ②30,000,000 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	平成 27 年に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である橋野鉄鉱山の保全と活用を推進するため、平成 30 年 3 月に策定した「橋野鉄鉱山の保存・整備・活用に関する計画」に基づき、調査し、理解増進を図っていくとともに、来訪者に安全で快適な見学環境を提供していくため史跡整備するものである。		
取組内容	橋野高炉跡史跡整備検討委員会の意見集約をもとに、橋野高炉跡整備事業と橋野高炉跡修復・公開活用事業を実施している。 前者においては橋野高炉跡の範囲内容確認調査を実施した。令和 7 年度は野外調査として三番高炉ブロック長屋跡の発掘調査を実施した。採掘場跡の測量は、これまで実施してきた成果をまとめる作業を実施した。室内整理として出土遺物の保存処理、出土遺物の科学分析等報告書作成に向けた作業を実施した。 後者では令和 7 年度は見学路建設箇所の発掘調査及び、見学路・遺構表示整備工事(その 1)を行った。		
取組による 成果と課題	【成果】 ○整備事業 ・発掘調査の結果、高炉絵巻に描かれたと考えられる長屋跡を確認した。 ・現地説明会や速報展などで史跡の重要性や調査の意義を広く周知した。 ○修復・公開活用事業 ・遺産の価値を損なうことなく、来訪者に安全快適な見学環境を提供するための見学路・遺構表示整備工事を実施できた。 【課題】 ○整備事業 ・文化庁の補助事業費採択率が約 1/2 のため、計画に遅れが生じている。 ○修復・公開活用事業 ・調査で発見した高炉絵図に描かれていない建物跡の取り扱いに検討が必要。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	旧釜石鉱山事務所維持管理費	令和 7 年度 決算額	1,643,677 円												
担当課	教育委員会事務局文化財課														
目 的	国登録有形文化財の旧釜石鉱山事務所の適切な維持管理を行うもの。														
取組内容	施設の適切な管理運営を行ったほか、イベント及び企画展を開催した。 《事業内容》 ○釜石鉱山展示室 TesonGW&地質の日企画展『ナウマンの地質図計画とその後』 （期 間） 令和 7 年 4 月 25 日（金）～5 月 19 日（月） （内 容） 当室所蔵『大日本予察地質図』（東北部・東部・西部・西南部） 東北部は日・英 ライマンの北海道地質図（複製） （期間中入館者数） 235 人 ○夏休み特別企画「鉱山（やま）の宝探し」（鉱石採集イベント） 岩石の種類を学ぶとともに標本箱を作った。（かまいし DMC 事業） （開催日） 令和 7 年 8 月 9 日（土） （参加者） 9 人 ○鉄の週間企画展「鉱山を極めるⅡ」 橋野鉄鉱山の採掘場である青ノ木鉱床について資料やパネルで紹介した。 （期 間） 令和 7 年 11 月 22 日（土）～12 月 8 日（月） （期間中入館者数） 96 人 【入館者の状況】 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>令和 3 年度</td> <td>令和 4 年度</td> <td>令和 5 年度</td> <td>令和 6 年度</td> <td>令和 7 年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>789 人</td> <td>1,150 人</td> <td>1,277 人</td> <td>1,718 人</td> <td>1,643 人</td> </tr> </table>			年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	人数	789 人	1,150 人	1,277 人	1,718 人	1,643 人
年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度										
人数	789 人	1,150 人	1,277 人	1,718 人	1,643 人										
取組による 成果と課題	【成果】 令和 6 年度に比べ入館者数は減少したものの、着実に周知が進んでいる。 【課題】 建物の老朽化、設備の故障が多くなっていることが課題。														
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)														

事業名	橋野鉄鉱山事業	令和 7 年度 決算額	5,726,430 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	橋野鉄鉱山の訪問者に安全で快適な見学環境を提供するため、維持管理を行うとともに、広く周知していくための事業を展開していく。		
取組内容	観光ガイド委託及び周辺環境整備委託を行うとともに、各種事業を実施した。 ○みんなの橋野鉄鉱山 （開催日） 令和 7 年 5 月 31 日（土） （開催場所） 史跡橋野高炉跡及び橋野鉄鉱山インフォメーションセンター （内 容） 清掃活動 雨のため中止 講演会 『橋野高炉跡発掘 70 年』 講 師 文化財課世界遺産室 高橋 岳 （参加者） 20 人 ○橋野鉄鉱山見学会 （開催日） 令和 7 年 8 月 2 日（土） （内 容） 通常非公開の採掘場跡、運搬路跡の見学 （参加者） 9 人 ○橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭 三陸中部森林管理署との共催事業 （開催日） 令和 7 年 11 月 13 日（木）（いい遺産の日） （内 容） 森林の清掃作業（一番・二番高炉東側国有林の倒木等の除去） ※世界遺産地域連携会議の「いい遺産のプロジェクト」と連携 （参加者） 14 人		
取組による 成果と課題	【成果】 通常のイベントに登録 10 周年の冠を付けて実施した。関係機関、団体と連携を取りながら事業を遂行することができた。 【課題】 事業多過にならないよう調整が必要。		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	橋野鉄鉱山インフォメーションセンター ー共通展示整備事業	令和 7 年度 決算額	14,124,000 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	橋野鉄鉱山インフォメーションセンターにユネスコ勧告にある共通展示システムを導入するとともに、登録以来の新知見を踏まえつつ、パネルの多言語化等を図る。		
取組内容	橋野鉄鉱山インフォメーションセンターへの世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の共通展示導入を目的とした展示更新工事を実施した。 【主な更新内容】 (映 像) 共通展示（「明治日本の産業革命遺産」各エリアで共通に展示する展示）の仕様を導入し、大画面となるとともに、内容も「世界遺産「明治日本の産業革命遺産」各エリアの紹介」、「高炉絵巻 2 巻」、「岩手 3 つの世界遺産」と充実した。 (パネル) 共通展示パネルにあわせ、橋野鉄鉱山紹介部分もデザインを一新し、世界遺産登録から 10 年間で蓄積した調査成果を盛り込んだ内容とした。		
取組による 成果と課題	【成果】 展示更新工事業者を決定し、橋野町振興協議会、釜石観光ガイド会と調整の上、工事の段取りを進めることができた。 【課題】 補助事業が採択後、事業に取り掛かったが、入札不調があったことから、年度内での工事完了ができなかった。（令和 8 年度繰越事業）		
評価結果	□ 拡充(継続) ■ 現状継続 □ 縮小(継続) □ 廃止(完了含む)		

事業名	橋野鉄鉱山インフォメーションセンター維持管理費		令和 7 年度 決算額	4,832,219 円		
担当課	教育委員会事務局文化財課					
目 的	橋野鉄鉱山及び世界遺産「明治日本の産業革命遺産」を紹介する施設として平成 25 年度に開所した。訪問者に安全で快適な見学環境を提供するため、維持管理を行うもの。					
取組内容	管理委託（橋野町振興協議会） 仮設トイレの設置 など					
	【入館者の状況】					
	年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
	人数	5,263 人	6,219 人	7,319 人	5,982 人	6,786 人
取組による 成果と課題	【成果】 地元の方々と協力しながら運営ができている。10 周年イベント開催等に伴い、令和 7 年度は、前年度より入館者数が増加した。					
	【課題】 インフォメーションセンターの水道は、平成 28 年台風 10 号の影響で井戸水となっているが、近年水量が減ってきている傾向がある。					
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)					

事業名	鉄の歴史館改修事業	令和 7 年度 決算額	7,370,000 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	鉄の歴史館は釜石の歴史と文化をわかりやすく紹介するために昭和 60 年に開館し、平成 6 年に増築された施設である。築 40 年近くが経過し、建物、設備の老朽化が著しいことから、来訪者に安全で快適な見学環境を提供するため、年次計画で施設改修を行う。		
取組内容	令和 7 年度は空調設備更新工事設計業務委託を実施。 あわせて、エレベーター更新工事を発注した。(令和 8 年 8 月完成予定)		
取組による 成果と課題	【成果】 空調設備更新工事について更新後の経費やスケジュールに無理のない設計を行うことができた。 【課題】 鉄の歴史館空調設備、外壁改修、トイレ改修など多くの改修事業があることから、経費及びスケジュールの調整が必要。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)		

事業名	鉄の歴史館維持管理費	令和 7 年度 決算額	24,433,506 円														
担当課	教育委員会事務局文化財課																
目 的	鉄の歴史館は釜石の歴史と文化をわかりやすく紹介するために昭和 60 年に開館し、平成 6 年に増築された施設である。 本事業は訪問者の鉄の歴史への理解増進と安全で快適な見学環境を提供することを目的としている。																
取組内容	施設の適切な管理運営を行ったほか、イベント及び企画展を開催した。 ○夏季企画展 「明治日本の産業革命遺産」ポスター展 (開催期間) 令和 7 年 7 月 2 日 (水) ～9 月 2 日 (火) (内 容) 世界遺産登録 10 周年となった 「明治日本の産業革命遺産」の構成資産を管理する 11 市の世界遺産に関するポスターを展示。あわせて、「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会作成パネルも展示。 (期間中入館者数) 2,287 人 ○鉄の週間企画展『橋野鉄鉱山展』 (開催期間) 令和 7 年 11 月 22 日 (土) ～令和 8 年 1 月 12 日 (月・祝) (内 容) 世界遺産登録 10 周年を記念し、橋野鉄鉱山の最新の調査成果等の関連資料を展示解説。なお、パンフレットについては釜石鉄山展示室の企画展と併せて作成した。 (期間中入館者数) 708 人 ○紙本両鉄鉱山御山内高炉之図の公開 (開催期間) 令和 7 年 11 月 29 日 (土) ～12 月 1 日 (月) (内 容) 県指定文化財紙本両鉄鉱山御山内高炉之図を公開した。 【入館者の状況】 <table><tr><td>年度</td><td>令和 3 年度</td><td>令和 4 年度</td><td>令和 5 年度</td><td>令和 6 年度</td><td>令和 7 年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>8,073 人</td><td>10,018 人</td><td>9,892 人</td><td>9,523 人</td><td>8,948 人</td></tr></table>					年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	人数	8,073 人	10,018 人	9,892 人	9,523 人	8,948 人
年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度												
人数	8,073 人	10,018 人	9,892 人	9,523 人	8,948 人												
取組による 成果と課題	【成果】 世界遺産登録 10 周年に合わせた事業を展開し、当市の鉄の歴史へのさらなる理解の増進が図られた。 【課題】 年々来館者が減少しており、広報力の強化や他の歴史文化施設との連携事業の強化が必要。																
評価結果	☐ 拡充(継続) ☒ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☐ 廃止(完了含む)																

事業名	世界遺産登録 10 周年記念事業【新規】	令和 7 年度 決算額	1,903,950 円
担当課	教育委員会事務局文化財課		
目 的	平成 27 年に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」が登録 10 周年を迎えたことから、これを契機とし、橋野鉄鉱山の周知を図る。		
取組内容	①「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山世界遺産登録 10 周年記念シンポジウム 【開催日】 令和 7 年 7 月 12 日（土） 【会 場】 釜石市民ホール TETTO 【内 容】 記念式典、製鉄所資料の寄贈式、河合敦氏による講演会、有識者によるパネルトーク 【来場者】 200 人 ②橋野鉄鉱山マルシェ 【開催日】 令和 7 年 7 月 13 日（日） 【会 場】 橋野鉄鉱山インフォメーションセンター 【内 容】 橋野鹿踊りの披露、森の音楽会、橋野鉄鉱山ガイド、ラベンダー鑑賞会、マルシェ（30 店舗） 【来場者】 650 人		
取組による 成果と課題	【成果】 幅広い世代に「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山を周知できた。 【課題】 マルシェなど賑わい創出的な事業には参加者が多いが、講演会等の文化的事業への集客に苦戦する傾向にある。		
評価結果	☐ 拡充(継続) ☐ 現状継続 ☐ 縮小(継続) ☒ 廃止(完了含む)		

「令和7年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価」 について学識経験者からの意見聴取会意見（要点）

学識経験者からの意見聴取会を開催し、教育委員会が取りまとめた点検・評価調書に基づき、4つの基本施策、その施策に係る7つの取り組み項目について、自己評価の妥当性及び今後の教育施策の推進に向けて御意見をいただいた。

1 開催日時 令和8年7月21日（火）13時30分から15時30分まで

2 会 場 市役所第4庁舎3階 教育委員会 会議室

3 委 員 谷澤 栄一さん（釜石まちづくり株式会社代表取締役）
山崎 鮎子さん（音楽家）
鈴木 崇さん（釜石市児童館館長）
木村 正樹さん（釜石市PTA連合会会長）

4 意見の聴取方法

担当課においてあらかじめ事業の自己評価を行い、二次評価として学識経験者から評価の妥当性について判断していただいた。

5 意見の概要

基本施策1 未来を担う子どもたちの育成
(1)生きる力を育む学校教育の充実

主な意見	○外国語指導助手設置事業（P5） - 外国語指導助手を増員予定とのことで、大変良いこと。今後は、統合も含めて小中連携を図っているところなので、中学校の英語教員が小学校高学年の授業を担当するなど柔軟な指導体制を取り入れることで、さらなる学力向上につながるのではないかと思います。 ○ICT 支援員配置事業（P10） - 昨今の学校現場における ICT 化は著しく進んでいて、これからの教育において ICT 教育は必要不可欠である。ただし、ICT を使うこと自体が目的ではなく、いかにその授業の目的を達成するか、効果的に使うかというのが狙いだと思うので、あくまでも手段としての ICT 活用をお願いしたい。 - 一方で、基礎・基本の定着も非常に重要であると改めて感じている。1 年生の鉛筆の持ち方や書き順などに、年々課題が見られるように感じる。今の段階で指導しなければ身に付かないものがあると思うので、ICT 化と同列で、基礎・基本の定着は学力向上の意味でも必要だと感じているので、そのあたりもお願いしたい。 ○要保護・準要保護児童生徒援助費（P11） - 世の中が大変な状況にある中で、経済的理由で就学困難な小中学生の保護者に対し、必要な援助を行うことは当然必要なこと。一方で、このような状況を生み出さないためには、経済的な支援施策の充実や、教育委員会と関係部署の連携がないと、今後も同様の経費が継続し、場合によっては増加していくことも考えられる。 ○全国標準学力検査（NRT）及び標準学力検査（CRT）等の実施（P15） - 学力がなかなか向上しない背景には、人口減少など、さまざまな要因があ
------	---

	るのではない。検査結果について分析し、その結果を実践につなげてもらいたい。 - 例えば、分析によって明らかになった課題について、「放課後等学習支援員配置事業」における放課後学習支援員と共有し、意識して支援に当たることや、教職員間で課題を共有して取り組むことなどが考えられると思う。 - 学力検査の分析結果を、実際の指導や支援の場面にどのように生かしているのか、その実践の状況について聞きたい。 ○全国標準学力検査（NRT）及び標準学力検査（CRT）等の実施（P15） - 学力検査は、自身の学力や立ち位置を図るうえで、本当に貴重な機会である。 - やりっぱなしではなくて、その結果をいかに学習内容の定着や学力向上につなげるかが大事だと思う。 - 児童生徒数の減少により、教員にとって一人一人により多くの時間をかけ、見てあげられる機会が増えるので、「少人数だからできない」ではなく、「少人数だからこそ、釜石ではこうした取組ができる」「学力も向上している」といったプラスの面にぜひ変えてもらいたい。 - 学力検査の結果を踏まえ、各学校において授業力の向上や教育の質の向上、教員の質の向上に向けた取組を進めてもらいたい。
--	---

基本施策２ 子どもを育む環境づくり

(1)地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進

(2)教育環境の充実とさらなる向上

主な意見	○かまいし絆会議運営事業（P19） - 本事業の内容を見るととてもいい取組が行われている。各学校においてもっと周知してもらいたい。このような取組は参加する方が限られるかもしれないが、子どもたちは活動をしっかり見ていると思う。労力をかけて取り組まれているので、保護者や児童生徒に対してより見える形にしたらいいいのではない。 - 例えば、市の広報紙や市のLINEと連携して、QRコードから関連情報へアクセスできる仕組みがあればいいと思う。年配の方には紙も必要だと思うが、ICTを活用した情報発信の仕方を強化していても良いのではないかとと思う。 ○特別支援教育支援員配置事業（P34） - 何らかの診断を受け特別な支援を要する児童生徒に対する事業で、少人数とはいえ多様な児童生徒もいる中で、通常の教室の中だけで対応していくというのは難しいのではない。 ○学校適応支援員配置事業（P39） - 基本施策１で学力向上の話があり、基礎・基本もそのとおりだが、まず教室の環境が落ち着かないといったところに手助けが必要な場面が結構あると聞いている。学校単位で空いている教員がヘルプで入るなど、校内で頑張っているところもあるようだが、どうにかならないものか。
------	--

基本施策３ 生涯学習・スポーツの振興

- (1) 学びと実践が循環しつながりをつくり出す生涯学習社会の形成
- (2) 豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

主な意見	意見なし
------	------

基本施策４ 歴史・文化・芸術文化の振興

- (1) 歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進
- (2) 橋野鉄鉱山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信

主な意見	○鉄づくり体験事業（P56） ・ 釜石は昔でいえば鉄と魚のまちで、今はラグビーも入っている。橋野鉄鉱山には小学生の頃に遠足で行った記憶があるが、そういう機会がないとなかなか行くことがない。 ・ 鉄に関する座学や見学などを、中学１年生を対象に実施している。このような取組がなければ、今の近代製鉄や日本がどうなっていたか、子どもたちには分からないものだと思う。 ・ 鉄に関する事柄を子どもたちにももっと知ってもらいたいので、子ども向けの漫画の冊子を作るとか、全部は難しいとしても、毎年どこかの学校の子どもたちが鉄に関する場所を見学するなど、ワクワクする体験を実施してもらいたい。 ・ 中学校を卒業するまでには、「釜石といえば製鉄」と思えるような体験ができる仕組みやサイクルが何かできないかなと思う。子どもたちがそういう体験をして、それを誇りに思いながら成長していくような流れを作ってもらいたい。
------	--

６ その他（全般を通しての意見）

特になし

